Ⅳ　観光客調査からみる７町のポジョニング

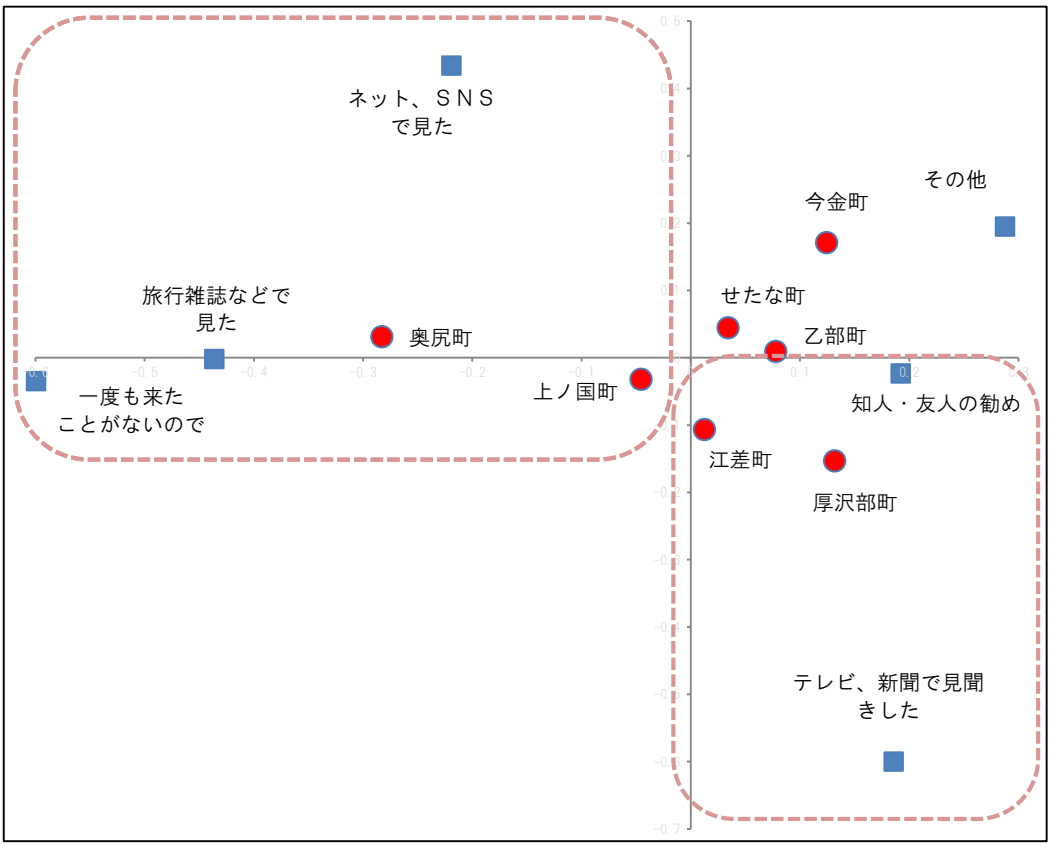
Ⅲの「レンタカー利用客アンケート」は、主として周遊経路を把握するために実施されたものであることから、前項とは別途、集計・分析を行った。

1　利用者

1　来訪動機

- コレスポンデンス分析により、各町の来訪契機の特性を検討した。これによると、奥尻町や上ノ国町は「ネット、ＳＮＳで見た」や「旅行雑誌など」に加えて「一度も来たことがないので」との要因と結びついている。両町は、どちらかと言えば旅行専門メディア及びパーソナルメディア（ＳＮＳ等）の広がりによって来訪を促進した形になっている。
- これに対して、江差町や厚沢部町などは「テレビ、新聞で見聞きした」という、旧来型のマスメディアの関与性が強く、さらに乙部町やせたな町も含めて「知人・友人が勧めてくれた」とのクチコミの関与性も大きいと言える。

各町の来訪契機ポジション／コレスポンデンス分析より（N=835）

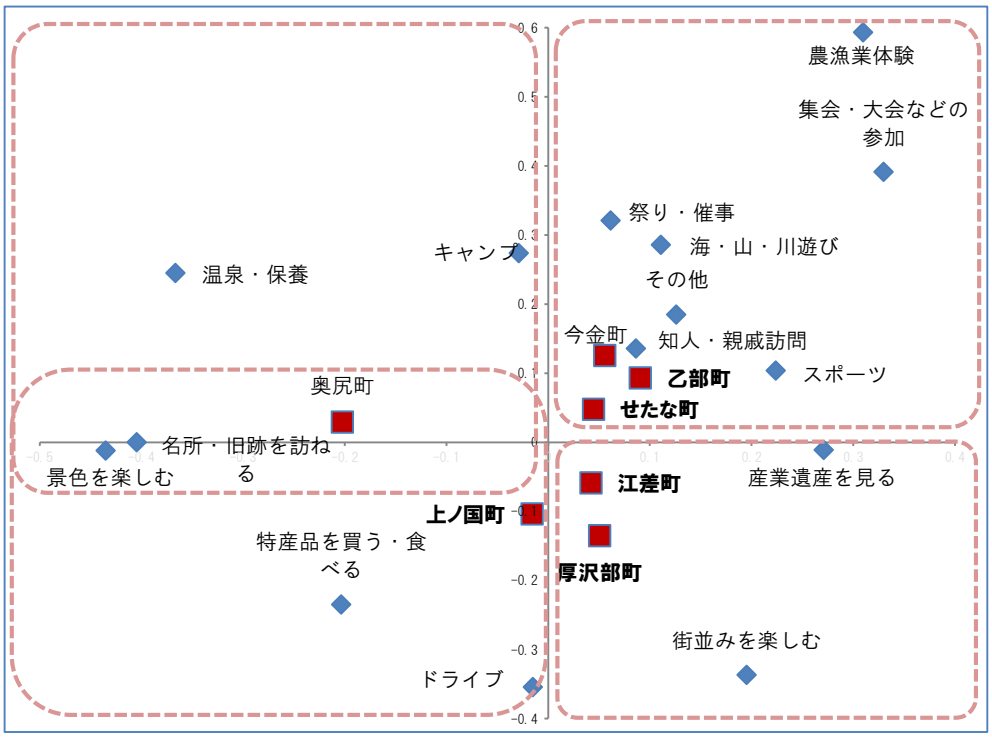


※コレスポンデンス分析は多変量解析の一種で、ここでは来訪地ごとの「来訪のきっかけ」のクロス集計のデータを用いて、全項目同士の関係（多変量で関係性を計算）から似通ったものを４つの象限に配置することで、近似性を見つけ出す分析手法である。ポジショニングを分かりやすく示すことができる手法としてマーケティングで多く用いられる。（なお、図中の軸にある数値は、配置を行うためのもので、プラスマイナスなど、それ自体に意味はない。）

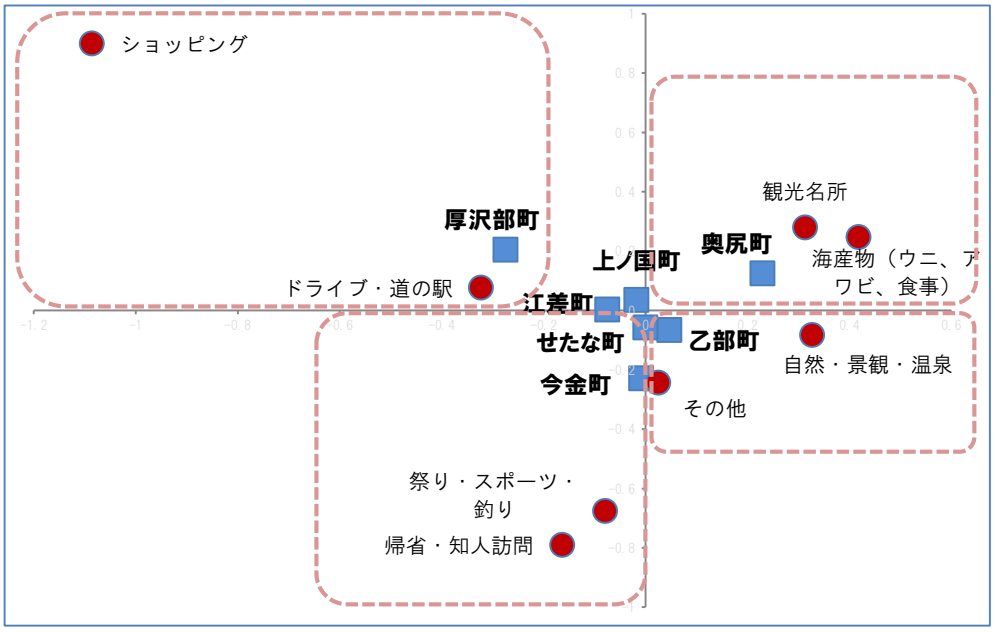
２　旅の目的

- 同様に各町の来訪目的の特性をみた。奥尻町は「温泉・保養」が強く関連し、上ノ国町と共に「名所・旧跡」、「景色を楽しむ」などと結びつく。
- 今金町、乙部町、せたな町は「スポーツ」、「海・山・川遊び」、「祭り・催事」などと繋がりがある。また、江差町については「産業遺産」との結びつきが強い。
- 下図下段は《一番の目当て》についてのポジショニングであるが、最も明瞭なポジションを持つのは厚沢部町の「ドライブ・道の駅」、「ショッピング」であり、奥尻町の「海産物（ウニ、アワビなど）」も明確な“目的をもった来訪”の特性を示している。

各町の来訪目的・お目当てのポジショニング／コレスポンデンス分析より（N=835）



各町来訪の一番のお目当てのポジショニング／コレスポンデンス分析より（N=835）

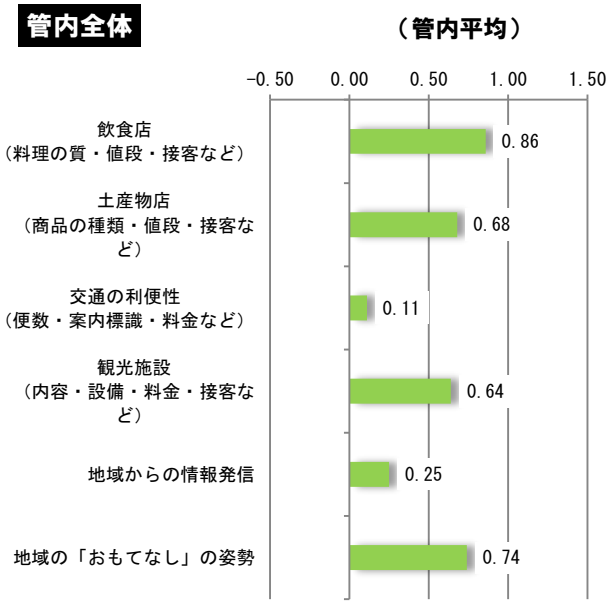


2　課題の分析

1　檜山管内全体

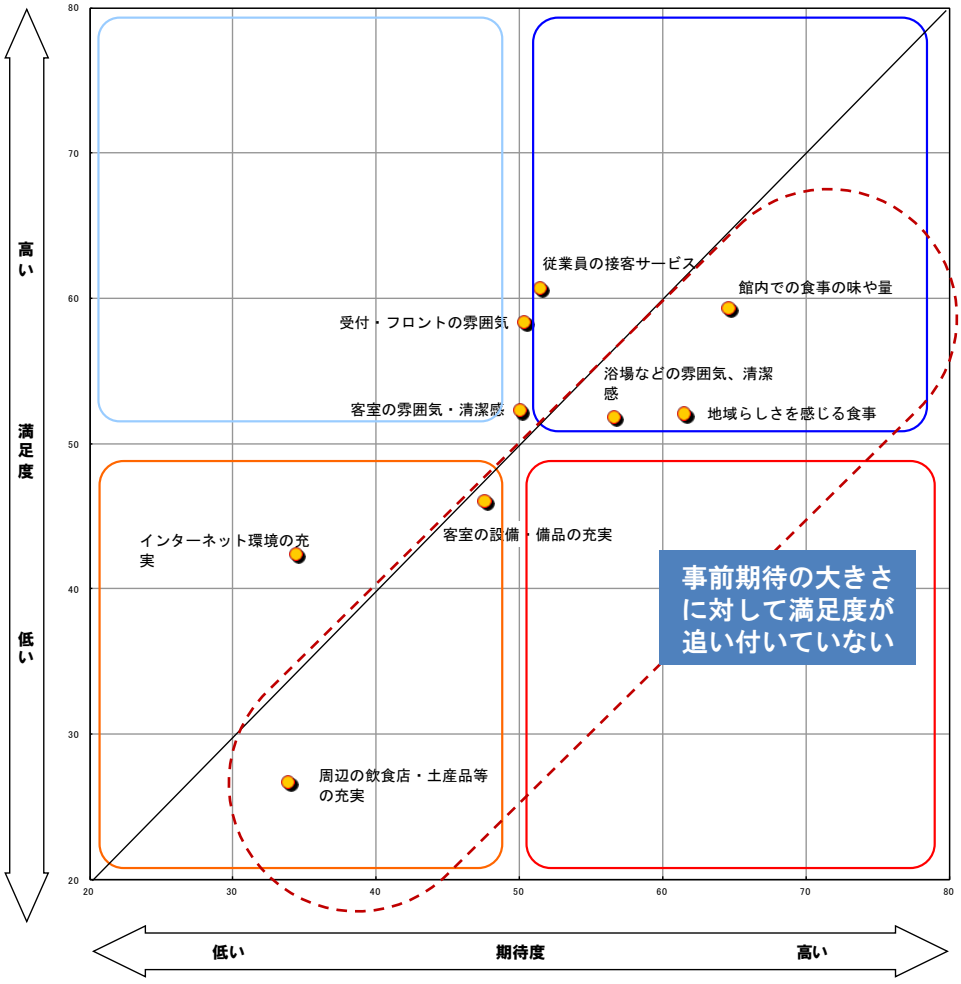
- 既に管内来訪者の満足度評価では、「交通の利便性」と「地域からの情報発信」分野で満足感が得られていないことが示されている。
- 下図は、管内宿泊施設調査のうち、事前期待度と実際の満足度によるポートフォリオ分析の結果を図示したものである。この図では右側三角形の範囲（期待の大きさに対して満足度が低い）にある分野が課題ポイントと見なされる。
- この図からは「管内の食事」・「地域の特徴ある食事」、「浴場」は一定水準の満足度があるが、事前期待の大きさに比して、まだ満足度を高める工夫があることを示している。

【観光地としての満足度：再掲】



【宿泊施設の期待と満足度　ポートフォリオ分析図】

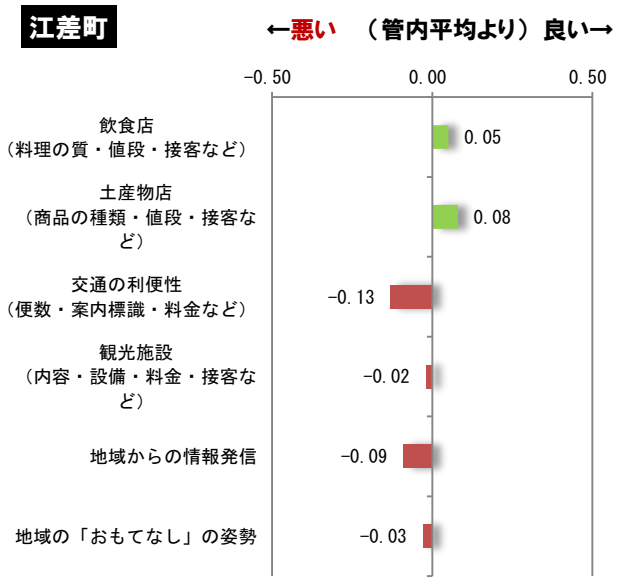
※ここで用いた期待度と満足度の数値はそれぞれ、スコア値を偏差値化したものである。



２－１　江差町

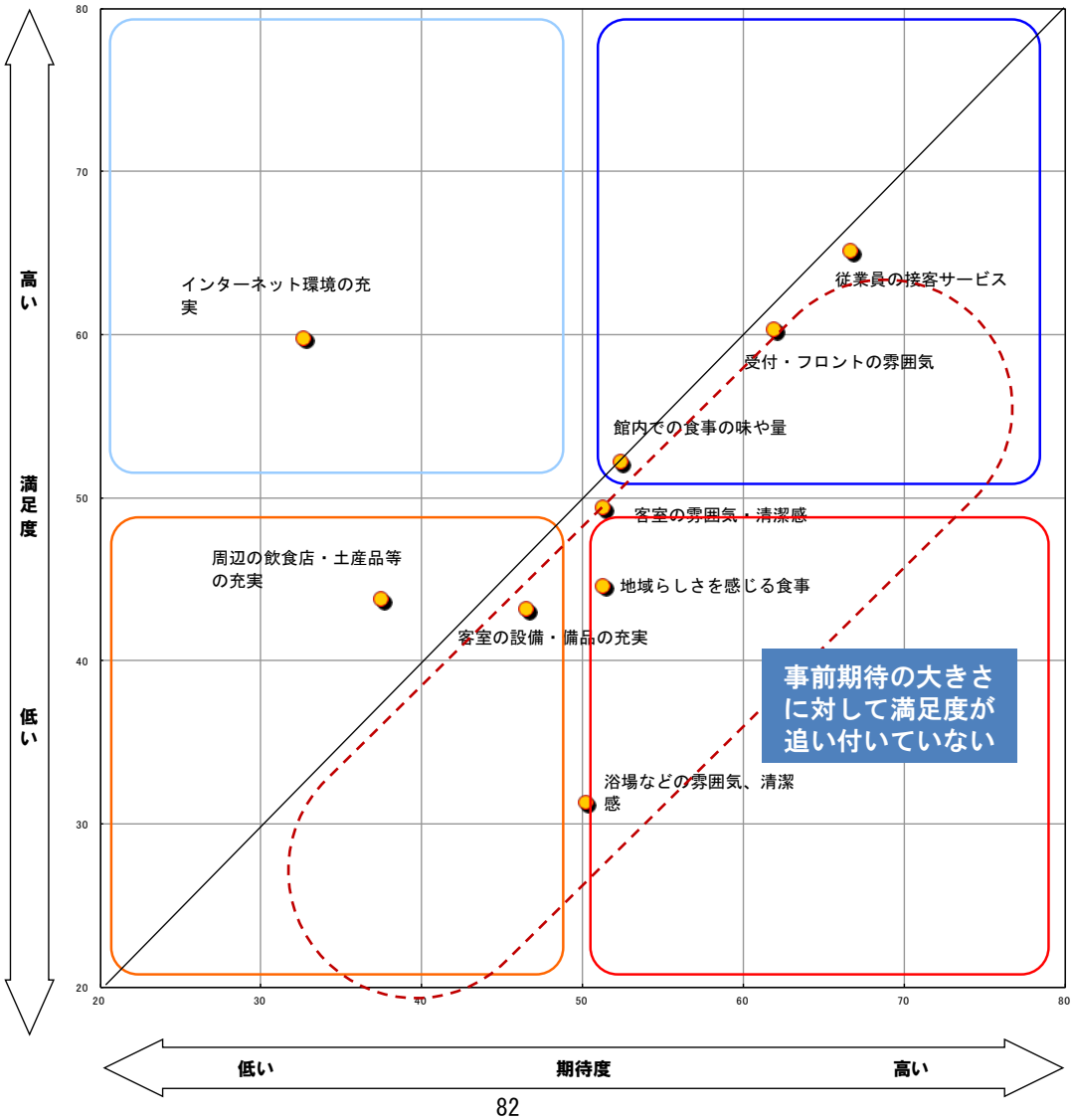
- 観光地としての同町への評価は、「飲食店」と「土産物店」の分野は管内平均以上の満足度を得ているが、「交通の利便性」と「地域からの情報発信」に関しては管内平均を下回っている。
- 下図の宿泊施設に対する事前期待度と実際の満足度によるポートフォリオ分析の結果では、多くの項目が「期待と満足度」のバランスが取れている状態にあるが、「従業員の応対」など“人的サービス分野”にやや課題を残している。
- また、「地域らしい食事」のあり方や「浴場関連」も課題の範ちゅうに入る。

【観光地としての満足度／管内平均との差】再掲



【宿泊施設の期待と満足度　ポートフォリオ分析図】

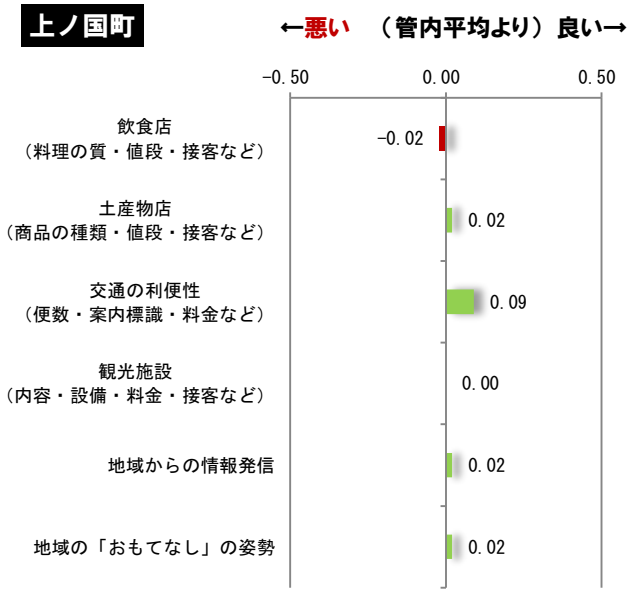
※ここで用いた期待度と満足度の数値はそれぞれ、スコア値を偏差値化したものである。



２－２　上ノ国町

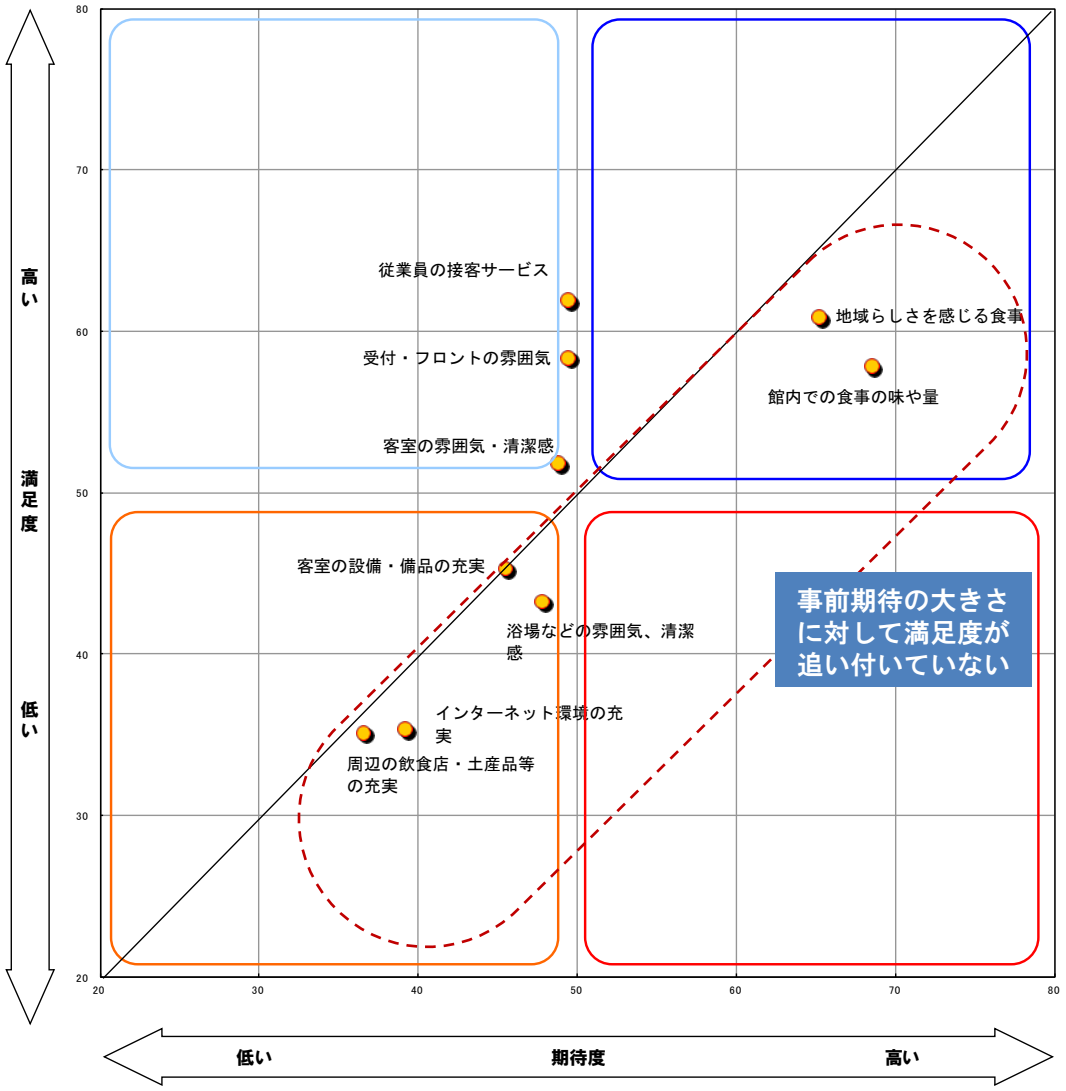
- 観光地としての同町への評価は、全般的に管内平均を上回る。
- 但し、「飲食店」に関しては僅かに管内平均を下回っていることに留意すべき。
- 下図の宿泊施設に対する事前期待度と実際の満足度によるポートフォリオ分析の結果では、特に“人的サービス面”で期待を上回る満足感を与えていることが分かる。
- 課題としては、事前期待の大きさに見合った満足度を作りきれていない“食事分野”を挙げる必要がある。

【観光地としての満足度／管内平均との差】再掲



【宿泊施設の期待と満足度　ポートフォリオ分析図】

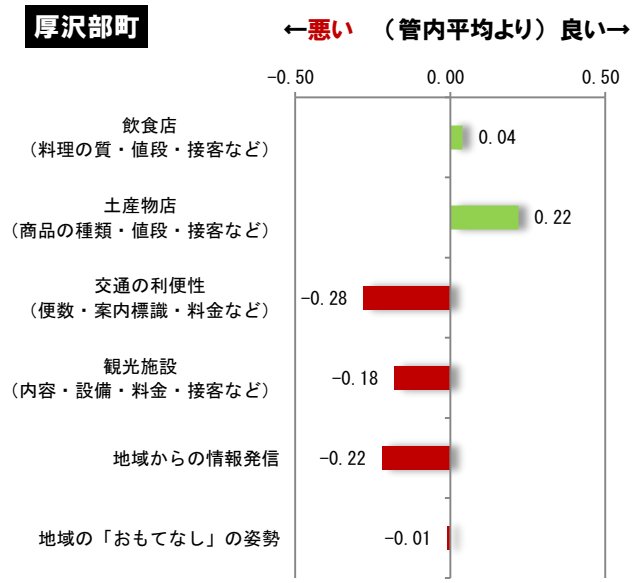
※ここで用いた期待度と満足度の数値はそれぞれ、スコア値を偏差値化したものである。



２－３　厚沢部町

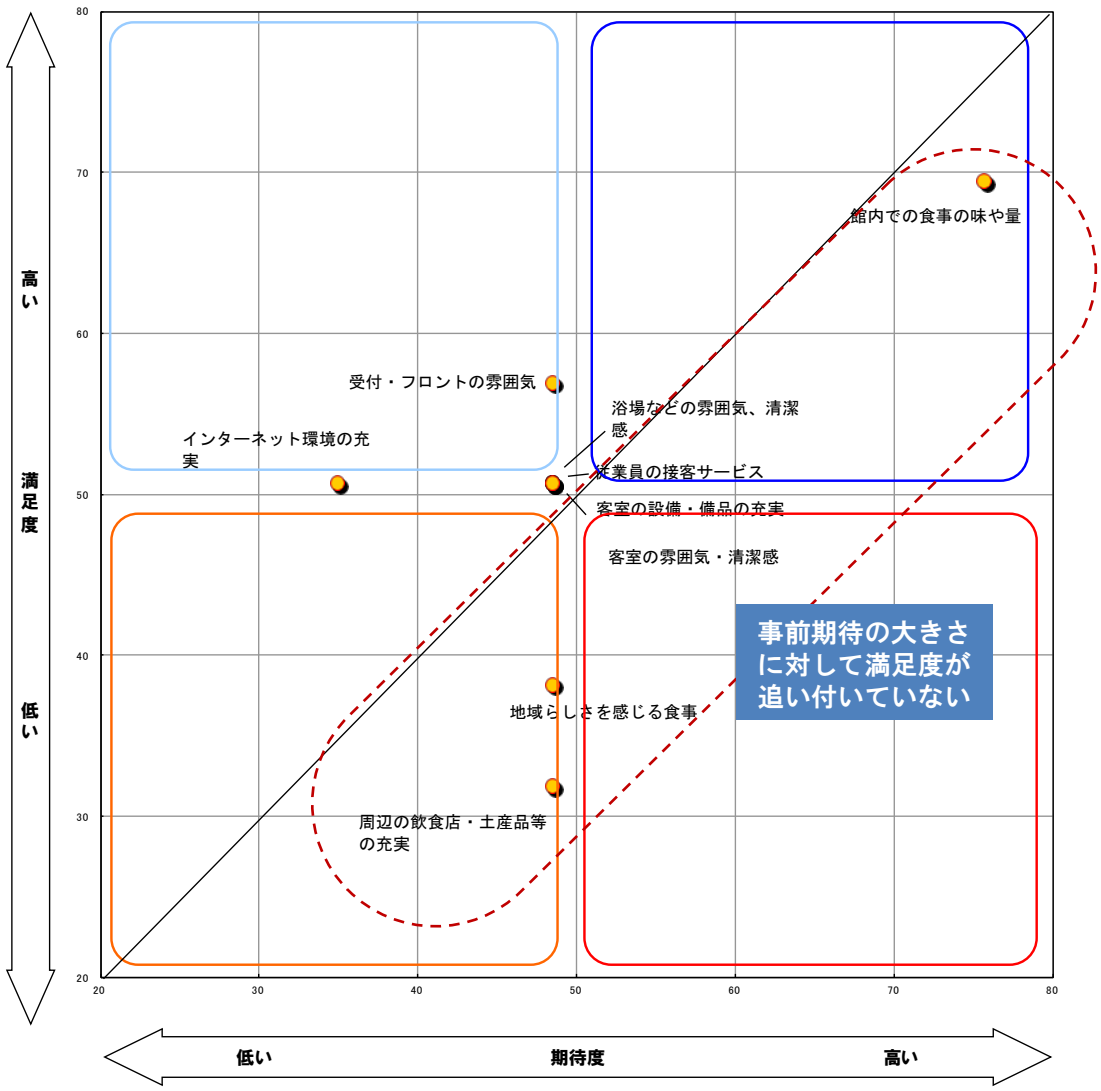
- 観光地としての同町への評価は、「土産物店」では管内平均を大きく上回り、「飲食店」に関しても僅かに管内平均を上回っている。
- しかし、「交通の利便性」、「観光施設」、「地域からの情報発信」分野は、いずれも管内平均を大きく下回っている。
- 下図のポートフォリオ分析の結果（※回答サンプル数が僅少であるため参考であるが）では、「地域らしさのある食事」や「周辺の飲食店・土産品店」などが課題となる。

【観光地としての満足度／管内平均との差】再掲



【宿泊施設の期待と満足度　ポートフォリオ分析図】※回答サンプル数が僅少であることに留意

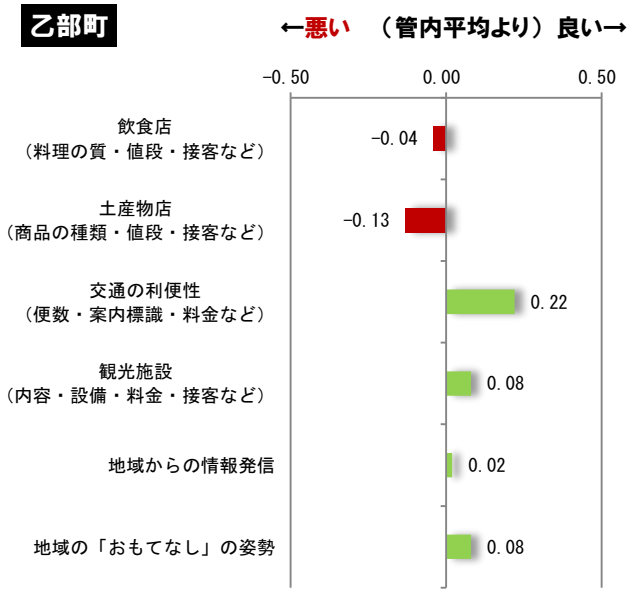
※ここで用いた期待度と満足度の数値はそれぞれ、スコア値を偏差値化したものである。



２－４　乙部町

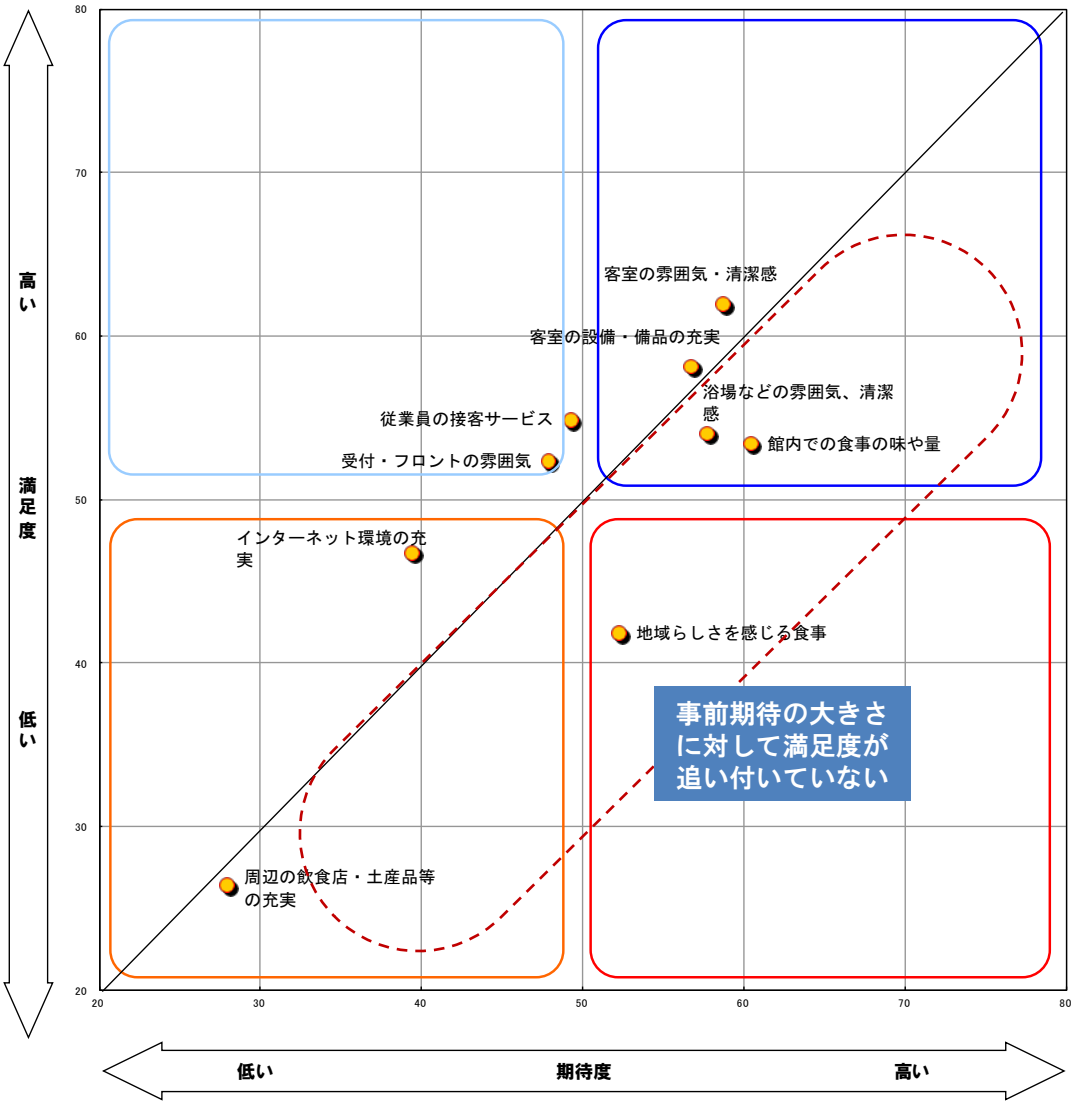
- 観光地としての同町への評価は、「飲食店」と「土産物店」で管内平均を下回ったが、その他の分野はいずれも管内平均を上回っている。
- 下図の宿泊施設に対する事前期待度と実際の満足度によるポートフォリオ分析の結果では、特に“人的サービス面”で期待を上回る満足感を与えていることが分かるものの、「管内での食事」や「地域らしさを感じる食事」など、“食”の分野で、事前期待の大きさに見合った満足度を作りきれていないことが分かる。

【観光地としての満足度／管内平均との差】再掲



【宿泊施設の期待と満足度　ポートフォリオ分析図】

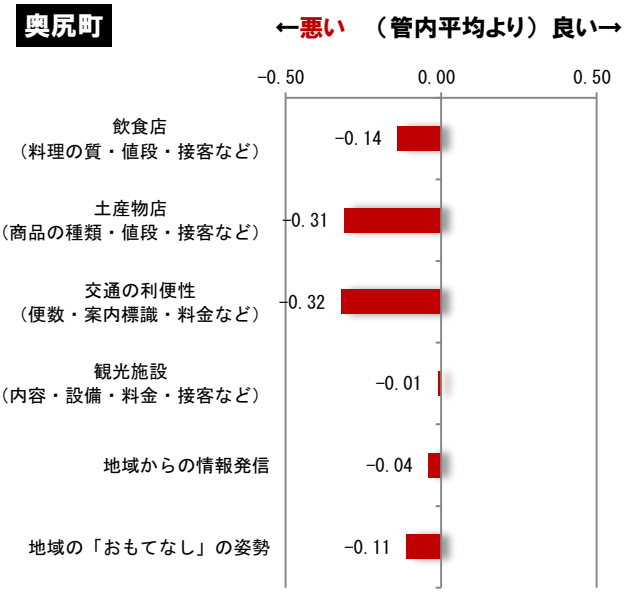
※ここで用いた期待度と満足度の数値はそれぞれ、スコア値を偏差値化したものである。



２－５　奥尻町

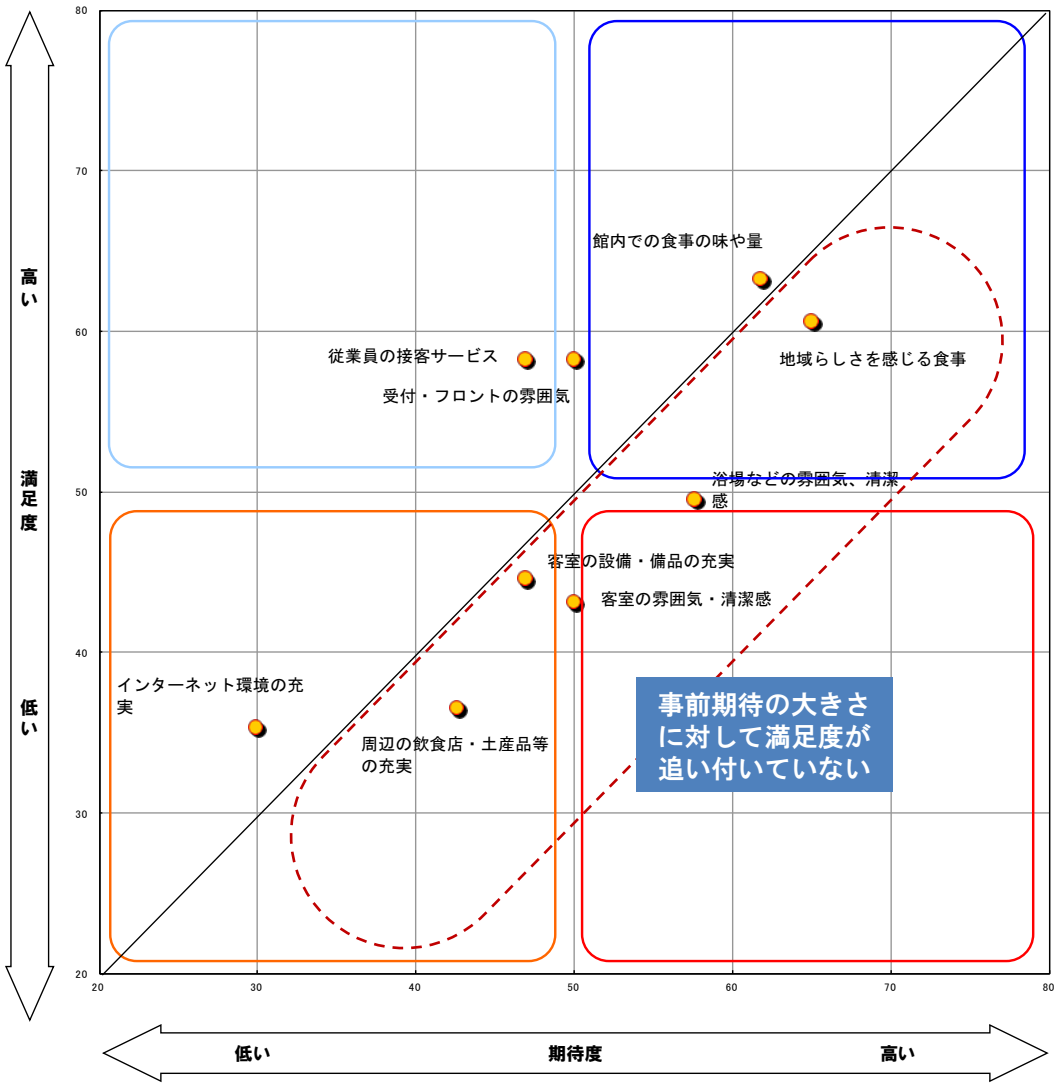
- 観光地としての同町への評価は、全般に管内平均を大きく下回り、特に「土産物店」と「交通利便性」の低評価は際立っている。
- 下図の宿泊施設に関するポートフォリオ分析結果からは“人的サービス面”や“管内での食事”では期待を上回る満足感を与えているものの、「浴場」や「客室の雰囲気・清潔感」などで期待を裏切っていることが分かる。
- 人的分野（ソフト面）で期待に応えながらも、施設（ハード面）が追い付いていない地域と言える。

【観光地としての満足度／管内平均との差】再掲



【宿泊施設の期待と満足度　ポートフォリオ分析図】

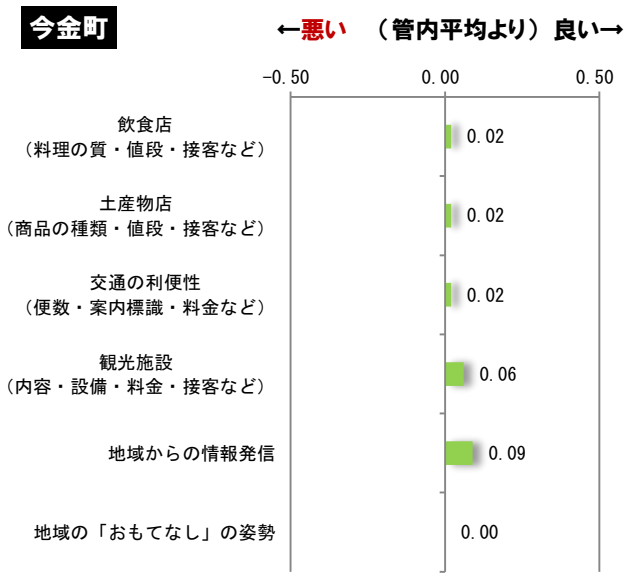
※ここで用いた期待度と満足度の数値はそれぞれ、スコア値を偏差値化したものである。



２－６　今金町

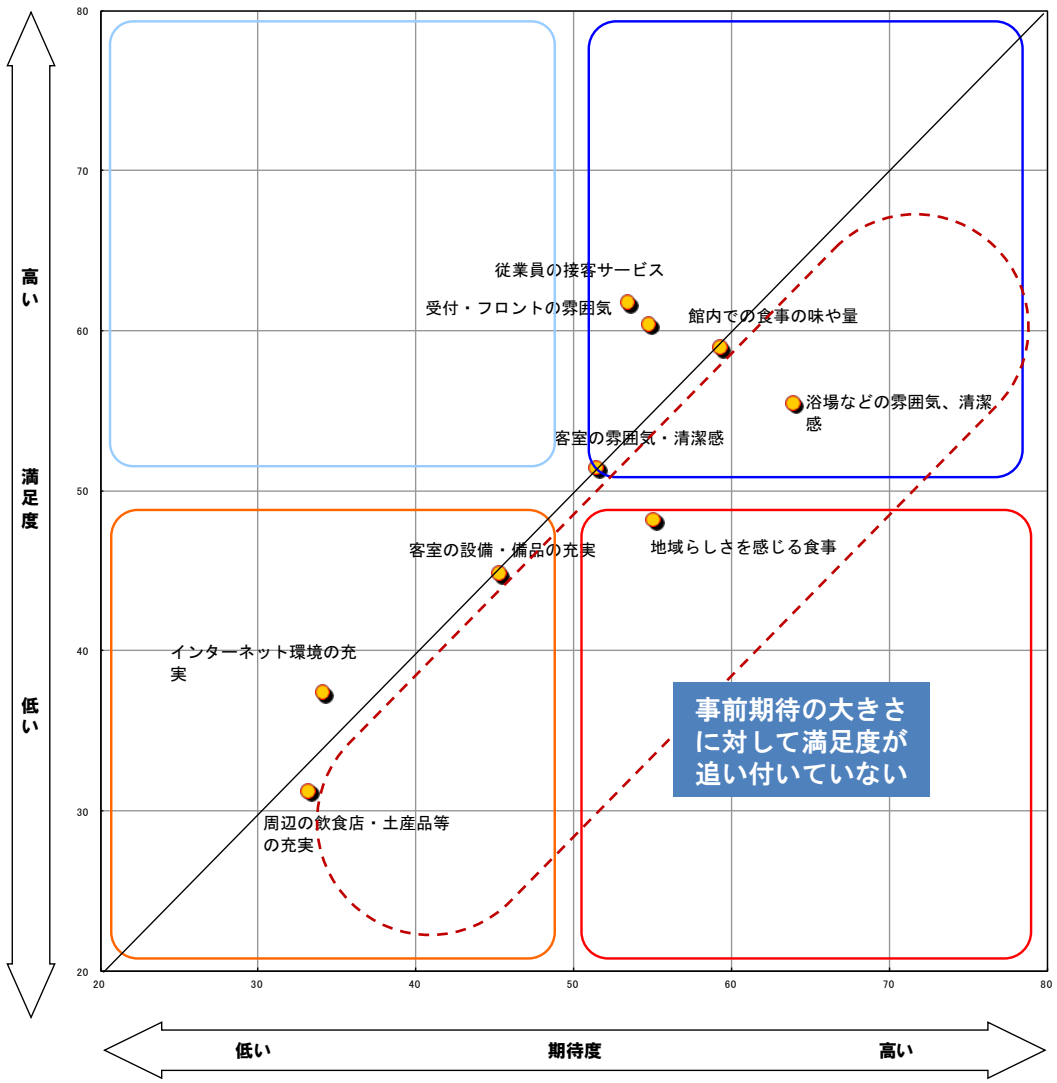
- 観光地としての同町への評価は、全般に管内平均を上回っているが、「地域のおもてなしの姿勢」については、管内平均自体が低評価であったことを勘案すると、“管内平均と同水準”という状態は、決して好ましいものではない。
- 下図の宿泊施設に関するポートフォリオ分析結果からは“人的サービス面”では期待を上回る満足感を与えているものの、「地域らしさのある食事」や「浴場」などで期待に見合う満足度を作りきれていない。
- 館内の食事の味や量については期待に応える水準にあることから、“地域らしさ”のプラスαに一工夫が必要であろう。

【観光地としての満足度／管内平均との差】



【宿泊施設の期待と満足度　ポートフォリオ分析図】

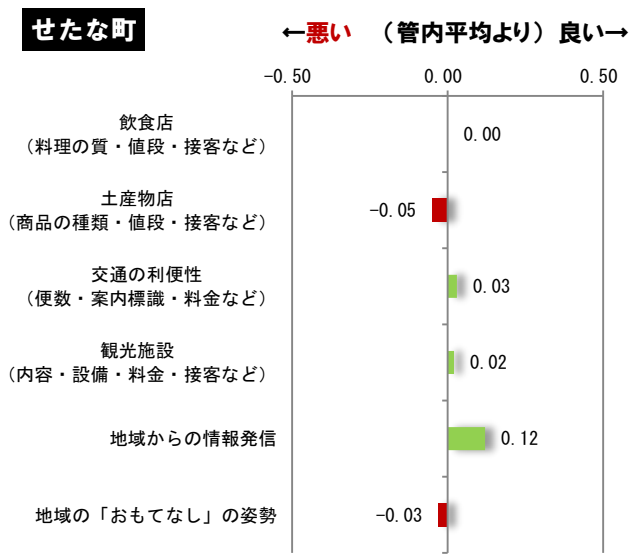
※ここで用いた期待度と満足度の数値はそれぞれ、スコア値を偏差値化したものである。



２－７　せたな町

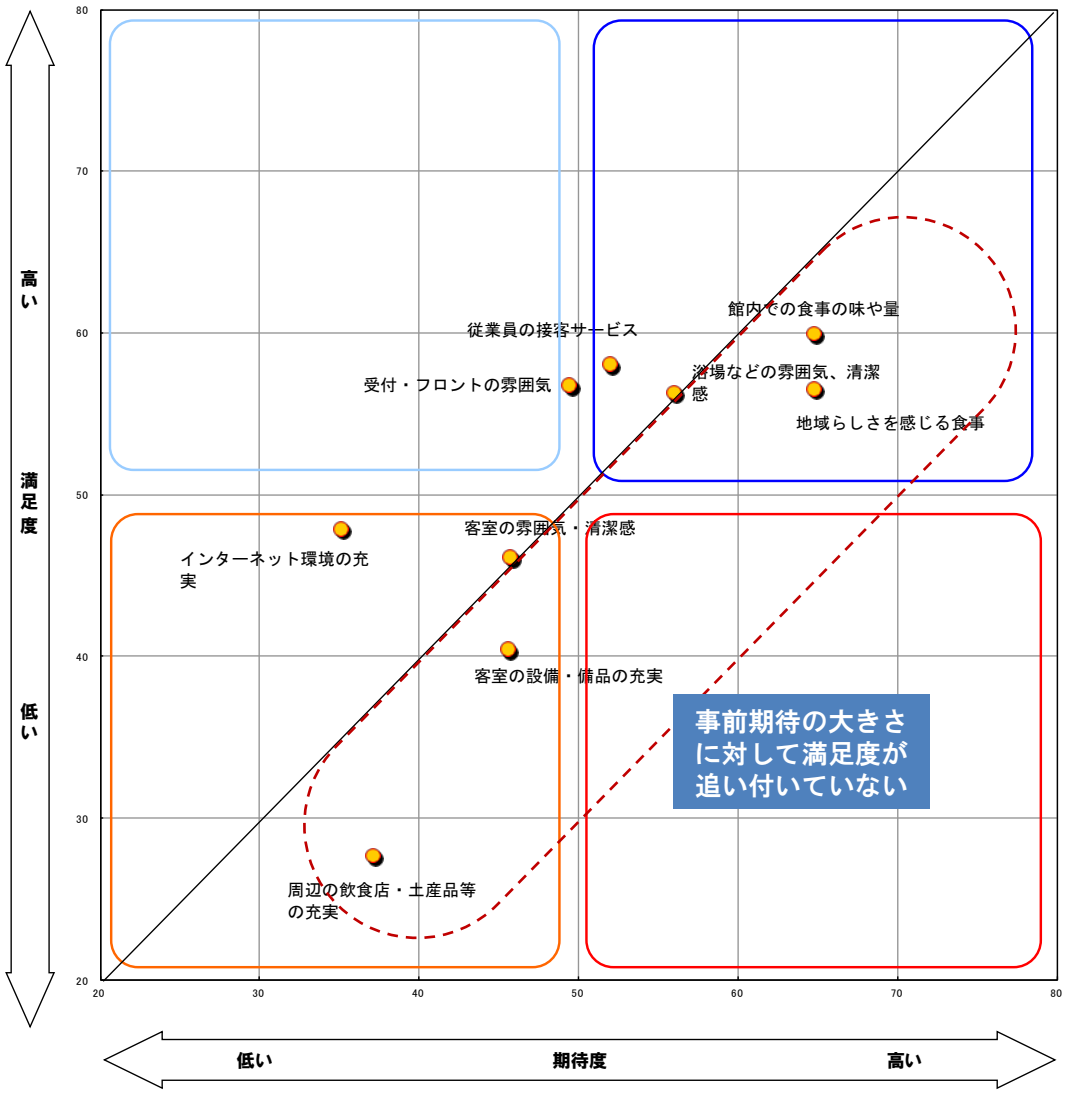
- 観光地としての同町への評価は、全般に管内平均並みの水準にあるが、特に大きく上回っているものも見当たらない。
- 下図の宿泊施設に関するポートフォリオ分析結果でも際立って課題（期待に満足度が追い付かない＝右下のゾーン）となるもの見当たらない。
- 強いて挙げれば、「地域らしさを感じる食事」や「食事の味や量」の分野であり、さらに「客室の設備・清潔感」などが、やや期待に見合う満足感を与えていない分野と言える。
- なお、“人的応対”の分野も、満足度の大きさと言う点では、まだ充分とは言い難い。

【観光地としての満足度／管内平均との差】



【宿泊施設の期待と満足度　ポートフォリオ分析図】

※ここで用いた期待度と満足度の数値はそれぞれ、スコア値を偏差値化したものである。



V　レンタカー利用客調査

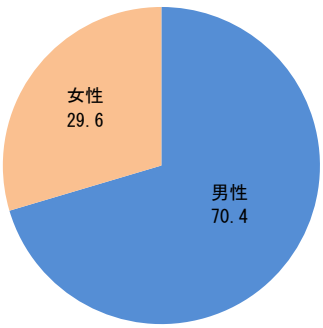
ここでは来訪客アンケート（観光地点調査・宿泊施設利用者調査）と別に実査された、
「レンタカー利用客アンケート」について集計・分析を行った結果を示している。

1　レンタカー利用客のプロフィール

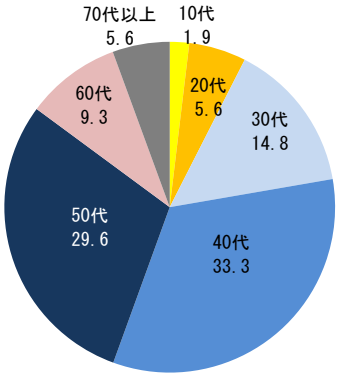
1－1　性・年代構成

- 函館市内を中心に借出されたレンタカーによる来訪者の7割は「男性」（70.4%）で占められる。
- 年代は「40代」（33.3%）と「50代」（29.6%）が中心であるが、「30代」（14.3%）や「60代以上」（計14.9%）など幅広い。

性別構成（N=54）



年代構成（N=54）



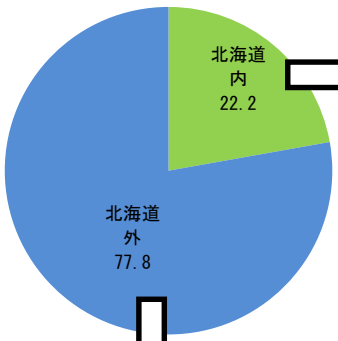
1－2　居住地分布

- レンタカーによる来訪者の8割近くは「道外客」（77.8%）で占められ、「道内客」（22.2%）は少ない。

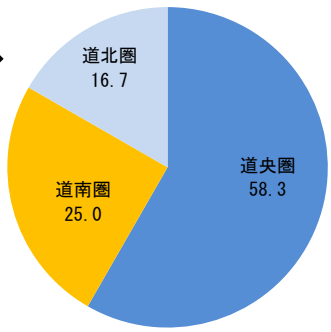
- 道内客の居住地は大半が「道央圏」（58.3%）で、他は「道南圏＝渡島管内」（25.0%）、「道北圏」（16.7%）が続く。今回調査では道東圏からの利用者はいなかった。

- 道外客に関しては、圧倒的に「（東京を含む）関東圏」（61.9%）で占められ、「東北」（14.3%）や「中部」（11.9%）が続く。「関西圏」（4.8%）は少ない。
- 道外客の来道手段は、北海道新幹線利用が多く、6割が「新函館北斗駅に到着」（57.1%）し、「木古内駅に到着」（14.3%）を合わせて7割を超える。
- その他は「飛行機＝ほとんどが函館空港」（23.8%）が1/4程度を占める。

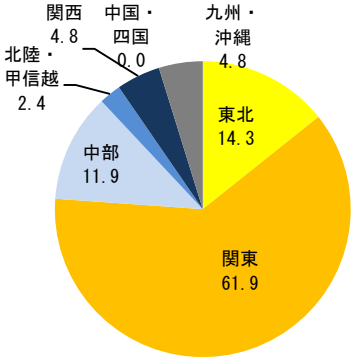
居住地構成（N=54）



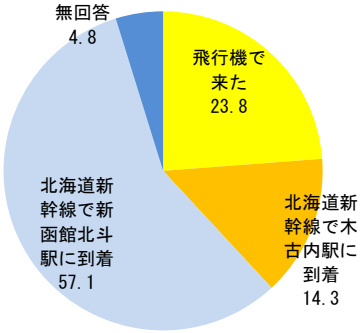
道内客の居住地（N=12）



道外客の居住地（N=42）



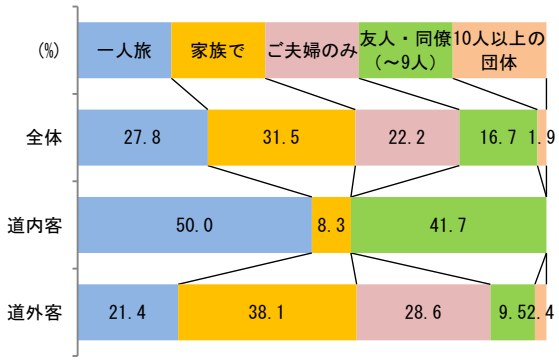
道外客の来道手段（N=42）



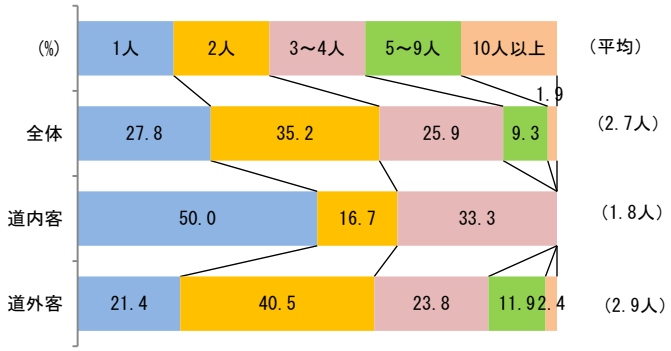
1－3　同伴形態

- レンタカーによる来訪者は「家族で」（31.5%）・「夫婦のみ」（22.2%）を合わせ、半数強がファミリー型で占められるが、「一人旅」（27.8%）も3割近くを占めている。
- 主力の道外客の場合は「家族で」（38.1%）が4割を占め、「夫婦のみ」（28.6%）となる。
- 本人を含む同伴人数は平均2.7人で、道内客（1.8人）より、道外客（2.9人）の方が多い。

同伴形態（N=54）



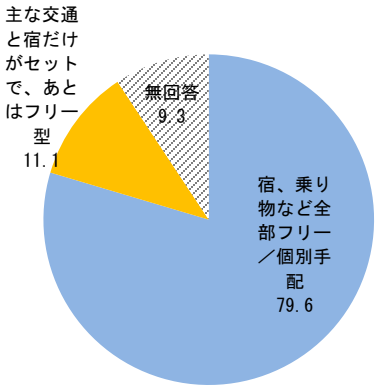
本人含む同伴人数（N=54）



1－4　旅行行程

- 旅行の手配はほとんどが「宿、乗り物など全部フリー／個別手配」（79.6%）で、残りは「主な交通と宿だけがセットで、あとはフリー型」（11.1%）となる。
- 旅行日数は、道内客の場合は1/4が「日帰り」（25.0%）も見られるが、圧倒的に「宿泊型」となり、道外客では「二泊三日」（40.5%）が中心となっている。

旅行手配方法（N=54）

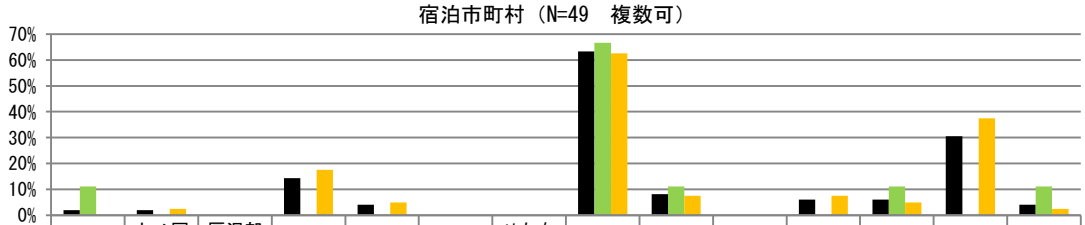


旅行日数（N=54）

(%)		サンプル数	日帰り	一泊二日	二泊三日	三泊四日	四泊五日	五泊六日	六泊以上	無回答
全体		54	9.3	18.5	37.0	13.0	7.4	5.6	7.4	1.9
時期	夏季	51	9.8	15.7	39.2	13.7	5.9	5.9	7.8	2.0
	秋季	3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
性別	男性	38	10.5	18.4	39.5	15.8	5.3	7.9	2.6	0.0
	女性	16	6.3	18.8	31.3	6.3	12.5	0.0	18.8	6.3
年代	10～30代	12	25.0	8.3	33.3	16.7	8.3	8.3	0.0	0.0
	40～50代	34	5.9	17.6	38.2	11.8	8.8	2.9	11.8	2.9
	60代以上	8	0.0	37.5	37.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0
居住	北海道内	12	25.0	33.3	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3
	北海道外	42	4.8	14.3	40.5	14.3	9.5	7.1	9.5	0.0

- 全体の89%を占める宿泊旅行者の《宿泊地》は下図のように、圧倒的に「函館市」（63.3%）が多く、檜山管内への宿泊は、僅かに「乙部町」（14.3%）が1割を超えたに留まる。

宿泊市町村（N=49　複数可）



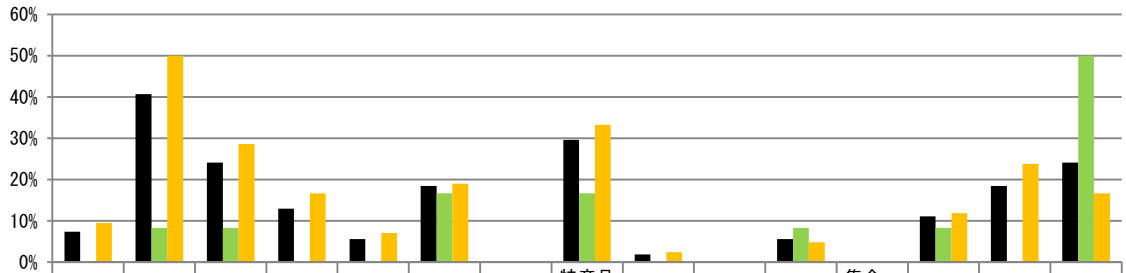
	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	函館市	松前町	八雲町	松前町	札幌市	その他	無回答
■全体	2.0	2.0	0.0	14.3	4.1	0.0	0.0	63.3	8.2	0.0	6.1	6.1	30.6	4.1
■道内客	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1
■道外客	0.0	2.5	0.0	17.5	5.0	0.0	0.0	62.5	7.5	0.0	7.5	5.0	37.5	2.5

2　観光行動

2－1　今回旅行の目的

- レンタカーによる来訪者全体では「景色を楽しむ」（40.7%）は最大で、これに「特産品を買う・食べる」（29.6%）、「名所・旧跡を訪ねる」（24.1%）、「温泉・保養」（18.5%）などが次ぐ。
- 主力の道外客でも「景色を楽しむ」（50.0%）が最大で、「特産品を買う・食べる」（33.3%）、「名所・旧跡を訪ねる」（28.6%）と続く。

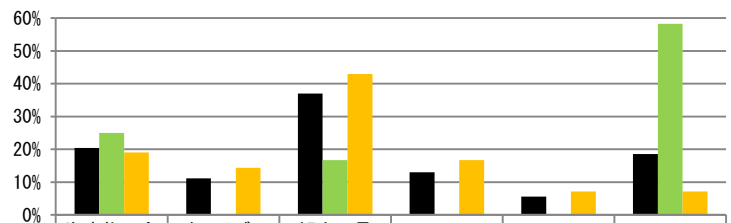
今回旅行の目的（N=54　複数可）



	海・山・川遊び	景色を楽しむ	名所・旧跡を訪ねる	街並みを楽しむ	産業遺産を見る	温泉・保養	農漁業体験	特産品を買う・食べる	スポーツ	キャンプ	祭り・催事	集会・大会などの参加	ドライブ	知人・親戚訪問	その他
■全体	7.4	40.7	24.1	13.0	5.6	18.5	0.0	29.6	1.9	0.0	5.6	0.0	11.1	18.5	24.1
■道内客	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	50.0
■道外客	9.5	50.0	28.6	16.7	7.1	19.0	0.0	33.3	2.4	0.0	4.8	0.0	11.9	23.8	16.7

- 最もお目当てにしていたものでは「海産物・食事」（20.4%）よりも、「観光・景色・温泉」（37.0%）が中心になる。

今回旅行の一番のお目当て（N=54　複数可）

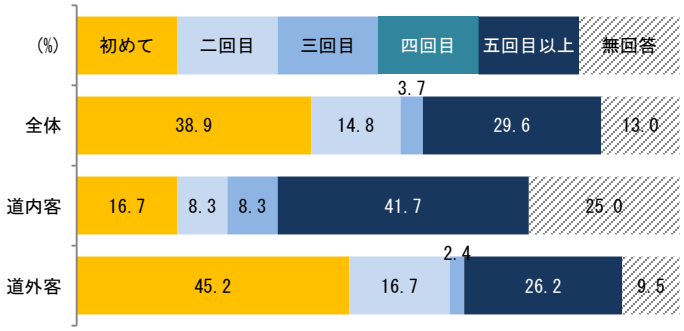


	海産物・食事	ドライブ・道の駅	観光・景色・温泉	帰省	その他	無回答
■全体	20.4	11.1	37.0	13.0	5.6	18.5
■道内客	25.0	0.0	16.7	0.0	0.0	58.3
■道外客	19.0	14.3	42.9	16.7	7.1	7.1

2－2　檜山地域来訪経験

- レンタカーによる来訪者全体では4割が「初めて」（38.9%）であるが、リピーターも計48.1%に上る。
- 但し、道外客に限ると「初めて」（45.2%）が半数近くとなり、リピーター（計45.3%）と二分する。意外に、リピーターが多いことになる。

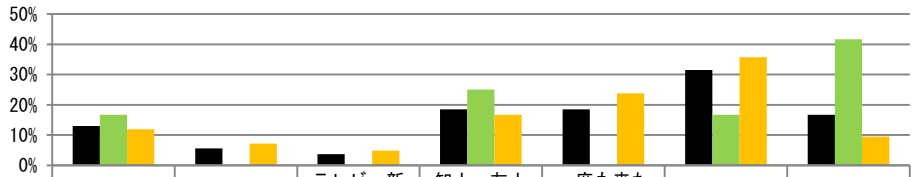
檜山地域来訪経験（N=54）



２－３　檜山地域来訪のキッカケ

- レンタカー来訪者全体では「その他」（31.5%）や「無回答」（16.7%）が多いが、これはリピーターを中心に“前に来て良かった、いつも来る”などが多い。
- これを除くと「一度も来たことがないので」（18.5%）、「知人・友人が勧めてくれた」（18.5%）、「ネット、ＳＮＳで見た」（13.0%）などが主なものとなる。
- 道外客では「一度も来たことがないので」（23.8%）が最多で、「知人・友人が勧めてくれた」（16.7%）、「ネット、ＳＮＳで見た」（11.9%）が次ぐ。

檜山地域来訪契機（N=54　複数可）



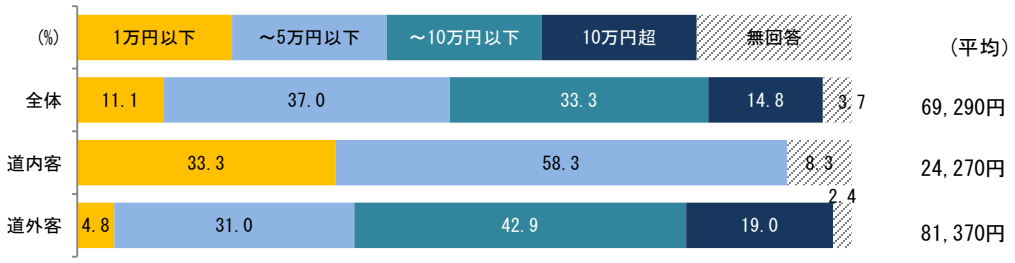
	ネット、ＳＮＳで見た	旅行雑誌などで見た	テレビ、新聞で見聞きした	知人・友人が勧めてくれた	一度も来たことがないので	その他	無回答
■全体	13.0	5.6	3.7	18.5	18.5	31.5	16.7
■道内客	16.7	0.0	0.0	25.0	0.0	16.7	41.7
■道外客	11.9	7.1	4.8	16.7	23.8	35.7	9.5

注）この地域への来訪手段の設問があったが、レンタカー利用者調査であることから、集計・分析から除外している。

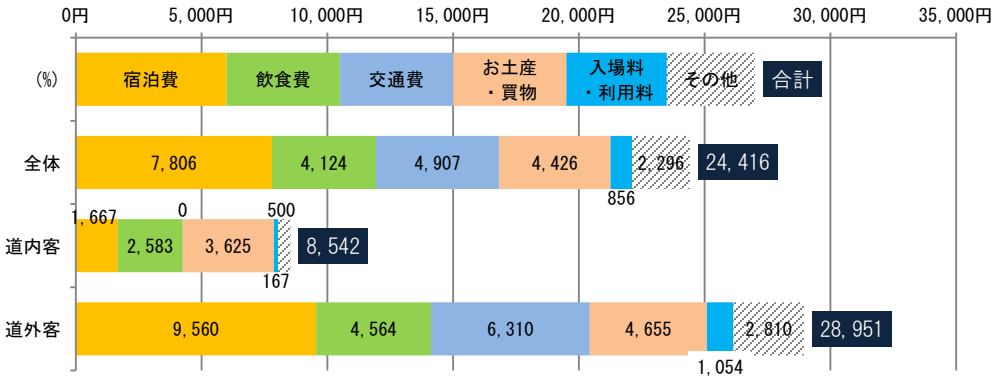
２－４　檜山管内での消費

- 今回の旅行総予算は平均69,290円であった。道内客は24,270円、道外客は81,370円となり、道外客の場合は先述の観光地調査・宿泊施設調査での道外客平均額（58,870円）よりも多い。
- 管内消費の内訳は、（非支出者も含む平均値）「宿泊費」（7,806円）、「飲食費」（4,124円）、「交通費」（4,907円）、「お土産・買物」（4,426円）などとなり、管内での支出計は24,416円（旅行総予算の35%程度に相当）となる。
- なお、道内客は管内支出合計が8,542円（旅行総予算の35%相当）、道外客は28,951円（同36%）となる。旅行総予算に対して、道内外客とも管内支出が35%前後で共通している。

今回旅行の総予算（N=54）



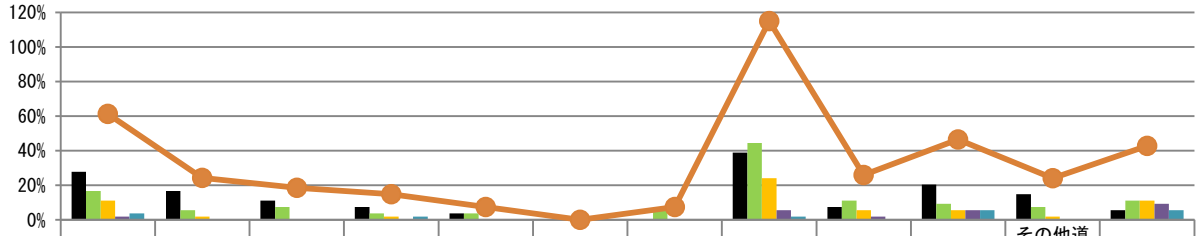
今回旅行で檜山管内での支出額／平均（N=54）



2－5　管内立寄り地

■ レンタカーによる来訪者全体では「江差町」（計61.2%）が最大で、「上ノ国町」（計24.2%）、「厚沢部町」（計18.5%）が次ぐ。北部エリア「せたな町」（計7.4%）など、ほとんど来訪していないことになる。

今回旅行の立寄り地（N=54　複数可）

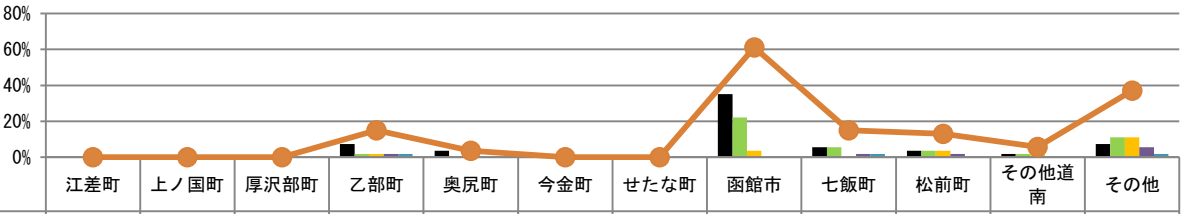


	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	函館市	七飯町	松前町	その他道南	その他
1日目	27.8	16.7	11.1	7.4	3.7	0.0	0.0	38.9	7.4	20.4	14.8	5.6
2日目	16.7	5.6	7.4	3.7	3.7	0.0	7.4	44.4	11.1	9.3	7.4	11.1
3日目	11.1	1.9	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	24.1	5.6	5.6	1.9	11.1
4日目	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	1.9	5.6	0.0	9.3
5日目	3.7	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	5.6	0.0	5.6
計	61.2	24.2	18.5	14.9	7.4	0.0	7.4	114.9	26.0	46.5	24.1	42.7

■ 宿泊地でも檜山管内は「乙部町」（計15%）である以外は、ほとんど出現しない。

■ レンタカー利用者の場合の宿泊拠点は明らかに、「函館市」（計61.1%）一極型と考えてよい。

今回旅行の宿泊地（N=54　複数可）



	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	函館市	七飯町	松前町	その他道南	その他
1泊目	0.0	0.0	0.0	7.4	3.7	0.0	0.0	35.2	5.6	3.7	1.9	7.4
2泊目	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	22.2	5.6	3.7	1.9	11.1
3泊目	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	3.7	1.9	11.1
4泊目	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.9	0.0	5.6
5泊目	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	1.9
計	0.0	0.0	0.0	15.0	3.7	0.0	0.0	61.1	15.0	13.0	5.7	37.1

２-６　レンタカーによる周遊経路

- レンタカーによる来訪者の周遊経路を「回答者を100とした通行率」で表したものが下図である。
- 主たる借出し地の函館方面⇔檜山管内の周遊経路は主に２つあり、１つは松前町から北上する経路、２つ目は主に国道227号を経由し、厚沢部町－乙部町から江差町に入る経路である。
- この２つの動線では、やや後者の方が太くなる。
- また、この経路図からは、函館基点のレンタカー利用者の場合、ほぼ乙部町以北には入込まないことが分かる。

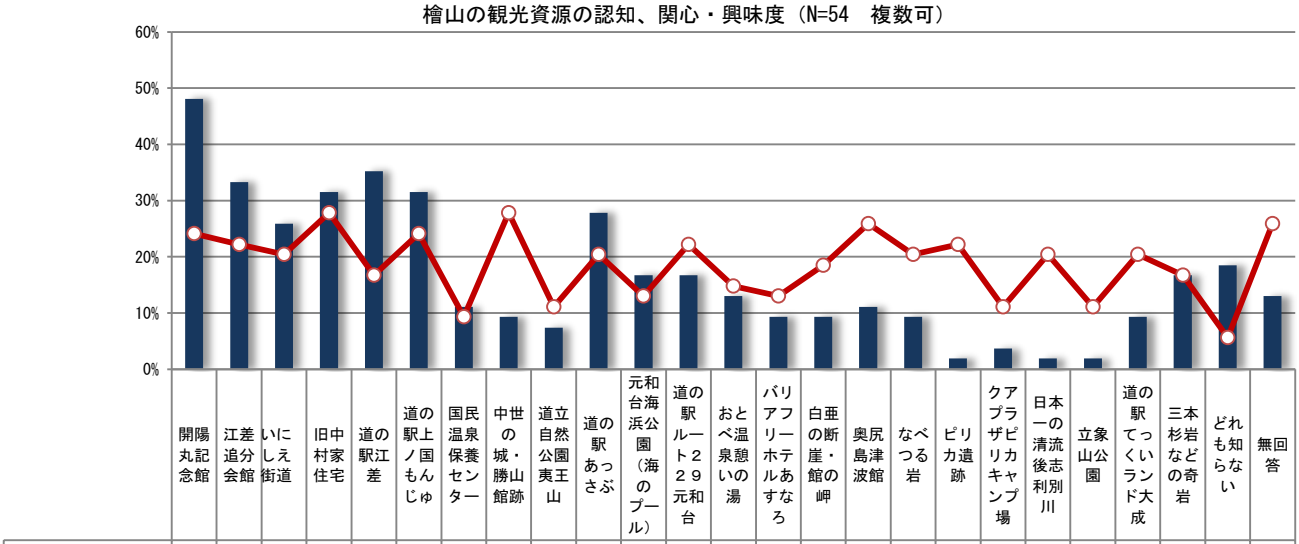
今回旅行の周遊経路（N=有効回答39人）　数値は該当区間を通行した割合

3　檜山管内の観光資源の浸透

3－1　檜山管内の観光資源の認知、関心度

- 認知度は、「開陽丸」（48.1%）が最高で、以下は「道の駅江差（35.2%）、「江差追分会館」（33.3%）、「旧中村家住宅」（31.5%）、「道の駅もんじゅ」（31.5%）などが次ぐ。
- 北部エリアの観光資源はいずれも低い認知率に留まっている。
- 関心・興味度　最高は「中世の城・勝山館跡」（27.8%）で、この他、奥尻町の各観光資源、北部エリアの「ピリカ遺跡」なども関心や興味を持たれている。
- 函館方面発のレンタカー利用客は北部エリアに入込まないことが分かっているが、その遠因として、こうした観光資源の認知浸透不足（知られれば、一定の関心や興味を持つ）があるように思われる。

檜山の観光資源の認知、関心・興味度（N=54　複数可）



	開陽丸記念館	江差追分会館	いにしえ街道	旧中村家住宅	道の駅江差	道の駅上ノ国もんじゅ	国民温泉保養センター	中世の城・勝山館跡	道立自然公園天王山	道の駅あっさぶ	元和海浜公園（海のプール）	道の駅ルート２２９元和台	おとべ温泉憩いの湯	バリアフリーホテルあすなろ	白亜の断崖・館の岬	奥尻島津波館	なべつる岩	ピリカ遺跡	クアプラザピリカキャンプ場	日本一の清流志利別川	立象公園	道の駅てっくいランド大成	三本杉岩など奇岩	どれも知らない	無回答
認知度	48.1	33.3	25.9	31.5	35.2	31.5	11.1	9.3	7.4	27.8	16.7	16.7	13.0	9.3	9.3	11.1	9.3	1.9	3.7	1.9	1.9	9.3	16.7	18.5	13.0
関心・興味度	24.1	22.2	20.4	27.8	16.7	24.1	9.3	27.8	11.1	20.4	13.0	22.2	14.8	13.0	18.5	25.9	20.4	22.2	11.1	20.4	11.1	20.4	16.7	5.6	25.9

檜山の観光資源の認知度（N=54　複数可）

(%)		サンプル数	開陽丸記念館（江差町）	江差追分会館（江差町）	江差いにしえ街道（江差町）	旧中村家住宅（江差町）	道の駅江差（江差町）	道の駅上ノ国もんじゅ（上ノ国町）	上ノ国町国民温泉保養センター（上ノ国町）	中世の城「勝山館」跡（上ノ国町）	道立自然公園天王山（上ノ国町）	道の駅あっさぶ（厚沢部町）	元和海浜公園（海のプール）（乙部町）	道の駅ルート２２９元和台（乙部町）	おとべ温泉憩いの湯（乙部町）	バリアフリーホテルあすなろ（乙部町）	白亜の断崖「館の岬」（乙部町）	奥尻島津波館（奥尻町）	なべつる岩（奥尻町）	ピリカ遺跡（今金町）	クアプラザピリカキャンプ場（今金町）	日本一の清流志利別川（今金町・せたな町）	立象公園（せたな町）	道の駅てっくいランド大成（せたな町）	三本杉岩、親子熊岩などの奇岩（せたな町）	どれも知らない	無回答
全体		54	48.1	33.3	25.9	31.5	35.2	31.5	11.1	9.3	7.4	27.8	16.7	16.7	13.0	9.3	9.3	11.1	9.3	1.9	3.7	1.9	1.9	9.3	16.7	18.5	13.0
時期	夏季	51	49.0	35.3	27.5	33.3	35.3	31.4	11.8	9.8	7.8	27.5	17.6	15.7	13.7	9.8	9.8	9.8	7.8	2.0	3.9	2.0	2.0	7.8	17.6	17.6	11.8
	秋季	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
性別	男性	38	52.6	31.6	28.9	28.9	39.5	34.2	15.8	10.5	10.5	26.3	13.2	15.8	10.5	10.5	7.9	13.2	7.9	0.0	5.3	2.6	2.6	10.5	18.4	13.2	15.8
	女性	16	37.5	37.5	18.8	37.5	25.0	25.0	0.0	6.3	0.0	31.3	25.0	18.8	18.8	6.3	12.5	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	12.5	31.3	6.3
年代	10～30代	12	25.0	8.3	0.0	0.0	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	33.3	25.0
	40～50代	34	58.8	44.1	35.3	41.2	44.1	41.2	17.6	8.8	11.8	35.3	23.5	23.5	17.6	11.8	11.8	14.7	14.7	0.0	5.9	2.9	2.9	11.8	20.6	11.8	8.8
	60代以上	8	37.5	25.0	25.0	37.5	12.5	25.0	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	25.0	12.5
居住	北海道内	12	58.3	33.3	41.7	33.3	58.3	41.7	25.0	0.0	16.7	16.7	16.7	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3	16.7	8.3	16.7
	北海道外	42	45.2	33.3	21.4	31.0	28.6	28.6	7.1	11.9	4.8	31.0	16.7	19.0	14.3	11.9	11.9	11.9	11.9	2.4	0.0	2.4	2.4	9.5	16.7	21.4	11.9

檜山の観光資源への関心・興味度（N=54　複数可）

(%)		サンプル数	開陽丸記念館（江差町）	江差追分会館（江差町）	江差いにしえ街道（江差町）	旧中村家住宅（江差町）	道の駅江差（江差町）	道の駅上ノ国もんじゅ（上ノ国町）	上ノ国町国民温泉保養センター（上ノ国町）	中世の城「勝山館」跡（上ノ国町）	道立自然公園天王山（上ノ国町）	道の駅あっさぶ（厚沢部町）	元和海浜公園（海のプール）（乙部町）	道の駅ルート２２９元和台（乙部町）	おとべ温泉憩いの湯（乙部町）	バリアフリーホテルあすなろ（乙部町）	白亜の断崖「館の岬」（乙部町）	奥尻島津波館（奥尻町）	なべつる岩（奥尻町）	ピリカ遺跡（今金町）	クアプラザピリカキャンプ場（今金町）	日本一の清流志利別川（今金町・せたな町）	立象公園（せたな町）	道の駅てっくいランド大成（せたな町）	三本杉岩、親子熊岩などの奇岩（せたな町）	どれも知らない	無回答
全体		54	24.1	22.2	20.4	27.8	16.7	24.1	9.3	27.8	11.1	20.4	13.0	22.2	14.8	13.0	18.5	25.9	20.4	22.2	11.1	20.4	11.1	20.4	16.7	5.6	25.9
時期	夏季	51	21.6	21.6	19.6	27.5	17.6	25.5	9.8	29.4	11.8	19.6	13.7	21.6	15.7	13.7	19.6	25.5	19.6	21.6	11.8	19.6	11.8	19.6	15.7	5.9	25.5
	秋季	3	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3
性別	男性	38	31.6	26.3	21.1	31.6	13.2	23.7	10.5	28.9	13.2	21.1	15.8	26.3	15.8	13.2	18.4	23.7	23.7	23.7	7.9	23.7	13.2	23.7	21.1	5.3	26.3
	女性	16	6.3	12.5	18.8	18.8	25.0	25.0	6.3	25.0	6.3	18.8	6.3	12.5	12.5	12.5	18.8	31.3	12.5	18.8	18.8	12.5	6.3	12.5	6.3	6.3	25.0
年代	10～30代	12	8.3	8.3	8.3	8.3	16.7	25.0	8.3	25.0	8.3	16.7	8.3	25.0	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	16.7	8.3	16.7	8.3	25.0	8.3	8.3	41.7
	40～50代	34	29.4	29.4	26.5	35.3	20.6	26.5	11.8	29.4	11.8	26.5	17.6	26.5	20.6	17.6	26.5	35.3	29.4	26.5	14.7	26.5	14.7	23.5	23.5	5.9	17.6
	60代以上	8	25.0	12.5	12.5	25.0	0.0	12.5	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5
居住	北海道内	12	8.3	25.0	16.7	16.7	8.3	8.3	8.3	25.0	8.3	25.0	16.7	33.3	25.0	25.0	33.3	16.7	33.3	33.3	8.3	25.0	25.0	25.0	16.7	0.0	41.7
	北海道外	42	28.6	21.4	21.4	31.0	19.0	28.6	9.5	28.6	11.9	19.0	11.9	19.0	11.9	9.5	14.3	28.6	16.7	19.0	11.9	19.0	7.1	19.0	16.7	7.1	21.4

３−２　管内で印象に残った観光地・施設

- 周遊中に印象に残った観光地、施設などを自由記述で回答いただいたが、江差町内の施設等への評価が多いなかで、「上ノ国もんじゅ」が比較的多く取り上げられている点に注目したい。
- 観光客の「評価視点」の事例として下記に一覧を示す。

居住	性別	年代	印象に残った施設	評価	具体的な感想（自由回答）
道外	女性	40代	木古内・道の駅	◎	塩ソフトクリームとても美味しい。
道外	女性	40代	福島町・道の駅	×	何もない。
道外	女性	40代	道の駅厚沢部	◎	野菜やソフトクリームが美味しかった。
道外	男性	40代	道の駅もんじゅ	◎	ここの食事は地元の食材を活かしたものなので空き。ほぼ毎回利用しています。リニューアルして良くなりました。
道外	女性	60代	道の駅あっさぶ	−	メークインがおいしいので注文した。とにかく大混雑していた。
道外	男性	40代	湯ノ岱温泉	◎	昔ながら感があり、ほっこりできます。
道外	男性	50代	追分ソーランライン	◎	最高のドライブルート。檜山はもっとＰＲしても良い。
道外	男性	40代	太田山神社	◎	階段の急さが迫力があって良かった。通行止めになっていて引き返すことになった。
道外	男性	30代	上ノ国もんじゅ	◎	初めて立ち寄ったが、土産が多くて良かった。
道外	男性	50代	上ノ国もんじゅ	○	
道内	女性	50代	上ノ国・もんじゅ	○	とても綺麗でお土産もたくさんあった。
道外	男性	50代	勝山館跡	○	
道外	男性	70代～	勝山館	◎	よく整備されていて１００名城の中でも良い。志苔館はダメだ。
道外	男性	50代	勝山館	○	ガイダンス施設の方が親切だった。
道外	男性	40代	祭り（出店）	◎	射的やスーパーボールすくい、綿飴が良かった。
道内	男性	30代	江差道の駅	○	
道外	男性	30代	江差道の駅	△	昔よりさびれている。松前みたいに食事ができると良い。
道外	男性	70代～	江差追分会館	◎	会館の方に教えて頂きました。
道外	男性	40代	江差町	◎	歴史ある街並み。ニシンそばが良かった。
道外	男性	40代	江差町	◎	散策していて楽しい町。にしんそばも美味しい。
道内	男性	10代	江差祭り	◎	
道外	男性	60代	江差	◎	海がきれいだった。
道外	男性	50代	厚沢部道の駅	◎	おらいもファミリーのトートバック購入。
道外	男性	40代	厚沢部	○	前井食堂の歴史があってよかった。
道外	女性	40代	元和台海浜公園	△	祝日なのに早じまいしていた。
道外	女性	50代	元和台海のプール	△	ウニ等のイベントは子供だけと言っているのに大人が出てきていた。
道外	男性	50代	元和台プール	○	
道外	男性	50代	郡役所	○	壁紙が美しい。
道外	女性	30代	旧中村家	○	外で写真を撮影しただけで、詳しくは分からない。
道外	男性	40代	旧中村家	◎	接客対応が良かった。当時の暮らしが想像できました。
道外	女性	40代	球島山	◎	見晴らしが素晴らしかった。
道外	男性	50代	各地の道の駅	△	厚沢部を除いては、いささか寂れている。食事の充実を望みたい。
道外	女性	30代	開陽丸記念館	◎	大砲を撃つ仕組みが面白かった。
道外	男性	60代	開陽丸記念館	○	歴史が学べた（五稜郭との関連）。
道外	男性	50代	開陽丸	◎	１７時直前に着いたので、外観のみ見学。今度は内部も見たい。
道外	女性	50代	開陽丸	○	
道外	男性	30代	開陽丸	○	歴史を感じた。周囲の建物も歴史が感じられるものだとよりよい。
道外	男性	50代	開陽丸	◎	感慨深い。
道外	男性	70代～	開陽丸	○	
道外	男性	60代	海岸線の景色・もんじゅ	◎	雄大さ、自然のままの景色。
道外	男性	50代	乙部館の岬	◎	
道内	男性	20代	乙部温泉	◎	
道外	女性	40代	奥尻津波館	◎	奥尻の津波について詳しく知ることが出来た。
道外	男性	40代	奥尻全般	◎	海産物が素晴らしい。のんびりできる。
道外	男性	40代	レストラン元和台	◎	そばが美味しかった。外のアスレチックが良かった。
道外	男性	50代	道の駅ルート２２９元和台	△	品揃えが少ない。
道外	男性	50代	道の駅上ノ国もんじゅ	○	建物が新しいのが幸いで土産品も新鮮味があった。
道外	男性	50代	道の駅江差	△	トイレだけで道の駅？確かに羊羹は売られているが。
道外	男性	50代	道の駅あっさぶ	△	道の駅レシートラリー開催中にもかかわらず、台紙が何もなく「今切らしています」の返答だけ。
道外	男性	40代	太櫓川河口	◎	ＴＶ番組で知り訪問。河口を見下ろす丘の上の牧草地。河口から瀬棚方面、反対の弁天岬方面は大雨と霧で断念。晴天時に再訪したい。
道外	男性	40代	バリアフリーホテルあすなろ	◎	高齢者同伴なのでバリアフリーで良かった。客室ドアが自動ドアで締まるのに時間がかかっていた。閉まるまでその場を離れられない。
道外	男性	50代	バリアフリーあすなＲ	◎	お風呂も料理も良くて癒された。
道外	男性	50代	せたなの奇岩	○	インパクトがある。こちらもあまり知られていないと思う。
道外	男性	50代	奇岩	◎	親子熊は印象的。
道外	男性	50代	かもめ島	◎	島歩きが楽しかった。
道外	男性	40代	かもめ島	◎	かもめ島をまわる時に上の高台からみる景色がきれいだった。
道外	男性	50代	かもめ岩	○	明治時代の来た前船の写真があり興味深かった。
道外	男性	50代	上ノ国温泉保養センター	◎	
道外	女性	40代	えさし道の駅	△	閉館時間が早くて入れなかった。
道外	男性	50代	江差追分会館	○	江差追分の実演が10月で終わっていて聞けなかった。
道外	男性	40代	江差・かもめ島	◎	奇岩や崖に隠れた入り江と浜がきれい。海陽丸と江差の街並みや鰊御殿にも立ち寄りたかった。
道外	女性	40代	いこいの湯	◎	近くに何もなく、温泉が楽しみです。旅の疲れが癒されて安くて良い。
道外	女性	40代	２２８号線ドライブ	◎	景色が良かった。

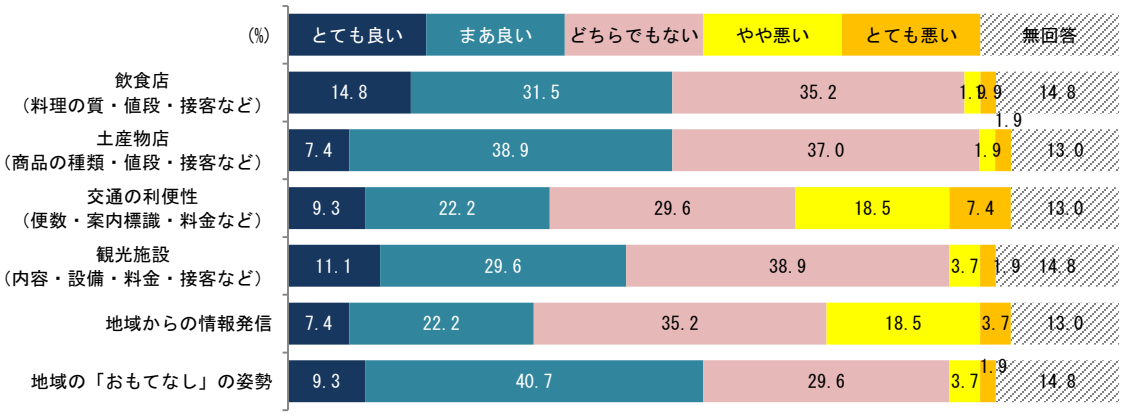
◎	とても良い	△	やや悪い
○	まあ良い	×	とても悪い

4　檜山管内の評価

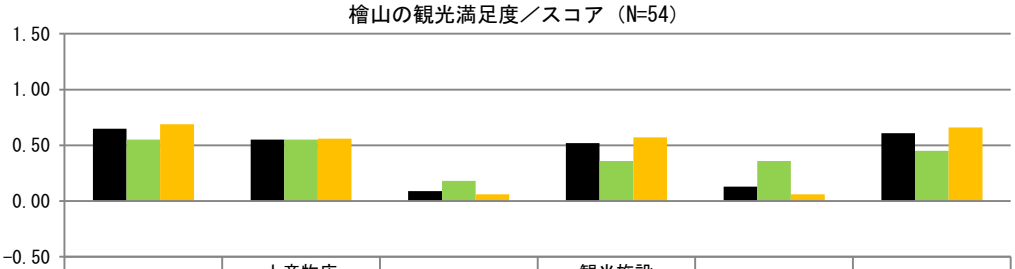
4－1　分野別満足度

- 満足（とても・まあ）の合計割合では「地域のおもてなしの姿勢」（満足割合計50.0%）が最大で、「飲食店（料理の質・値段・接客など）」、「土産物店（商品の種類・値段・接客など）」も共に満足割合が計46.3%に上っている。但し、『とても良い』の割合でみると、「飲食店」への満足度が最も大きいと見てよい。
- 下図（下段）は満足度をスコアで表したものであるが、これによるとやはり「飲食店」への満足度が最高で、以下は「地域のおもてなしの姿勢」、「土産物店」、「観光施設（内容・設備・料金・接客など）」が続き、「交通利便性」は最低の評価となった。また、「地域からの情報発信」もかなり低い評価となっている。

檜山の観光満足度（N=54）



檜山の観光満足度／スコア（N=54）



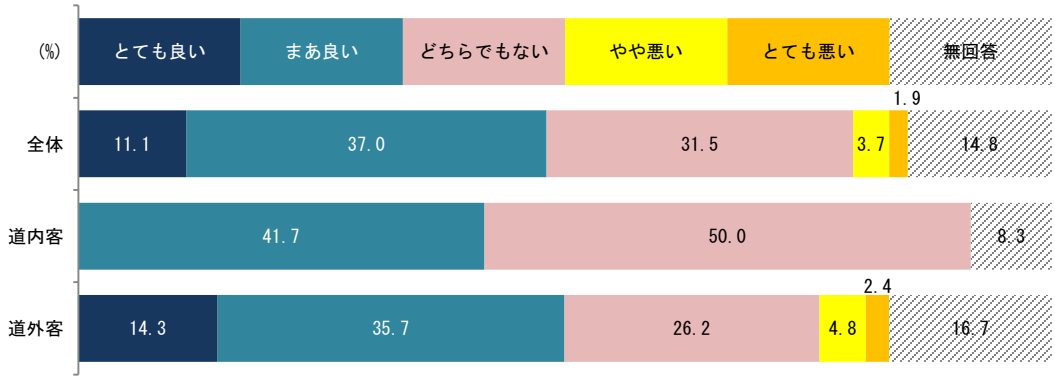
	飲食店（料理の質・値段・接客など）	土産物店（商品の種類・値段・接客など）	交通の利便性（便数・案内標識・料金など）	観光施設（内容・設備・料金・接客など）	地域からの情報発信	地域の「おもてなし」の姿勢
■全体	0.65	0.55	0.09	0.52	0.13	0.61
■道内客	0.55	0.55	0.18	0.36	0.36	0.45
■道外客	0.69	0.56	0.06	0.57	0.06	0.66

スコア：「とても良い＝＋2点」～「どちらとも言えない＝±0点」～「とても悪い＝－2点」のように、回答に得点を与えて算出した加重平均値である。

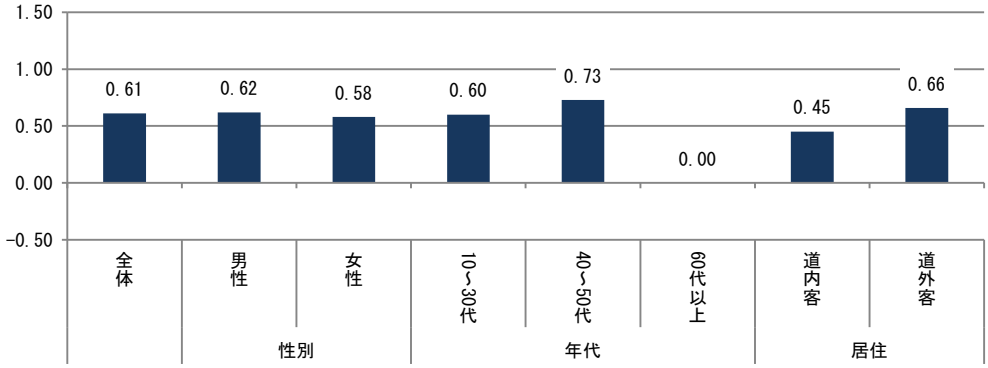
４－２　総合満足度

- 管内の観光について総合的に見た場合、「とても良い」（11.1%）と「まあ良い」（37.0%）を合わせた満足派割合は計48.1%となった。
- 「やや悪い」（3.7%）と「とても悪い」（1.9%）を合わせても6%程度に留まることから、全般的にはレンタカー利用者の総合満足度は良好な水準と言える。
- 下図（下段）は総合満足度をスコアで表したものであるが、60代以上、或いは道外客に比して道内客の評価が低いことに留意すべきであろう。

檜山の観光総合満足度（N=54）



檜山の観光満総合足度／スコア（N=54）

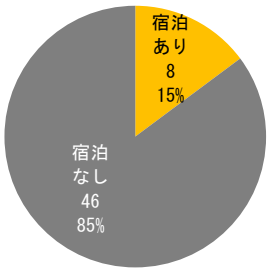


スコア：「とても良い＝＋2点」～「どちらとも言えない＝±0点」～「とても悪い＝－2点」のように、回答に得点を与えて算出した加重平均値である。

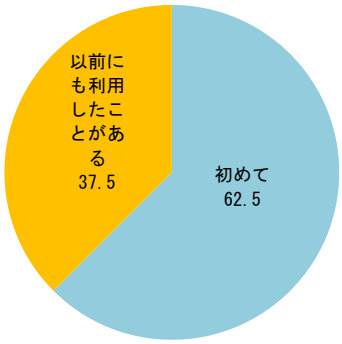
４－３　宿泊施設評価

管内で宿泊した者は回答54人中、僅か8人であることから、
以下の結果は図表のみ示すに留める。

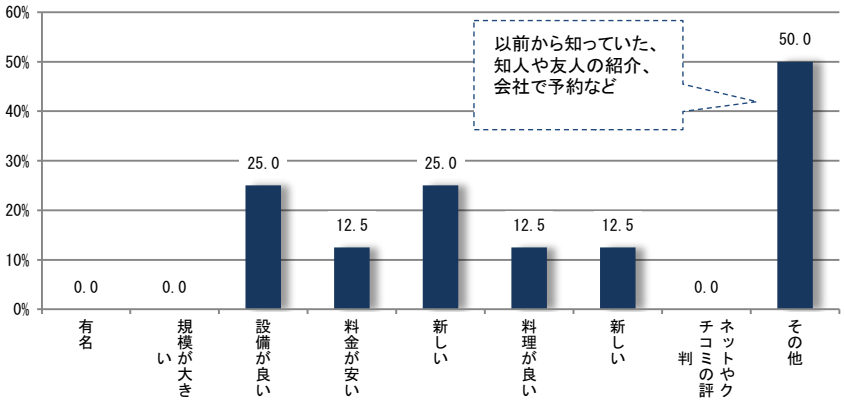
檜山管内で宿泊した割合（N=54）



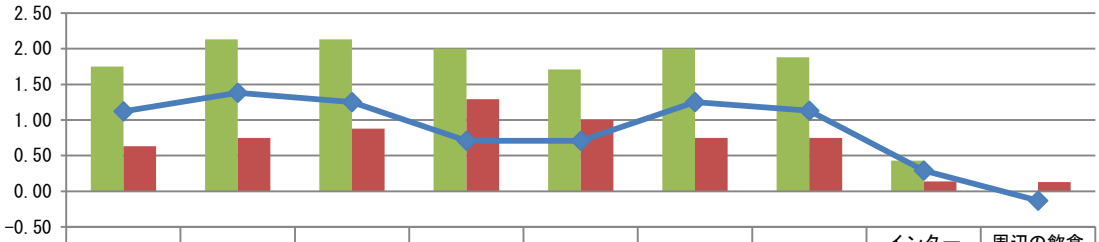
利用施設の利用経験（N=8）



利用した宿を選んだ理由（N=8　複数可）



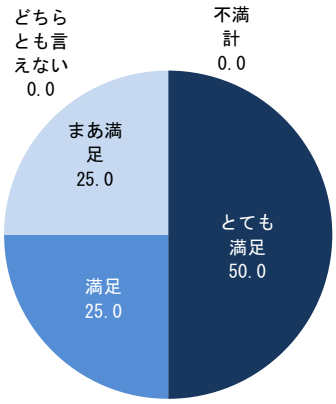
利用施設への「事前期待度」と「実際の満足度」（N=8）　※ギャップ＝満足度－期待度＝プラス方向になれば期待を上回る満足度を示す



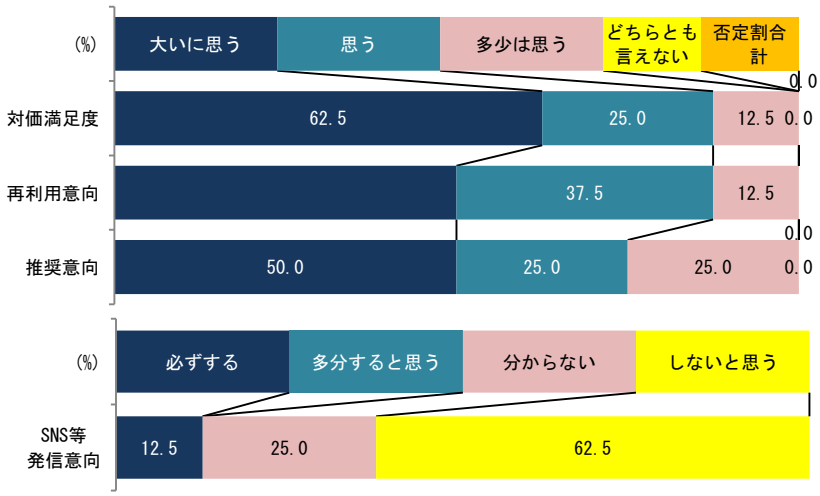
	受付・フロントの雰囲気・期待	従業員の接客サービス・期待	浴場などの雰囲気、清潔感・期待	館内での食事の味や量・期待	地域らしさを感じる食事・期待	客室の設備・備品の充実・期待	客室の雰囲気・清潔感・期待	インターネット環境の充実・期待	周辺の飲食店・土産品等の充実・期待
満足度	1.75	2.13	2.13	2.00	1.71	2.00	1.88	0.43	0.00
事前期待度	0.63	0.75	0.88	1.29	1.00	0.75	0.75	0.14	0.13
ギャップ	1.1	1.4	1.3	0.7	0.7	1.3	1.1	0.3	-0.1

スコア：「とても期待、満足＝＋3点」～「どちらとも言えない＝±0点」～「全く期待しない／かなり不満＝－3点」のように、回答に得点を与えて算出した加重平均値である。

利用施設への総合満足度（N=8）



利用施設への対価満足度など（N=8）



Ⅵ　檜山管内観光の経済波及効果

1　産業連関表を用いた経済波及効果について

1－1　経済波及効果の概念

- 経済波及効果とは、経済が多様な行動・活動と連係し合って動いているものであることから、ある行為（投資、事業）によって生じる各産業の動きと、それが他の動きを次々と誘発（波及）する効果を数値として示すものである。
- 経済波及の動きは、産業部門間の取引の仕組みを示した「産業連関表」を用いて計算され、ひとつの新たな需要（事業行為）によって生じる経済の循環段階に分けて、次の３つで表す。

■直接効果

ある産業に追加的に新たな需要が生じたとき、その需要を満たすために行われる生産額。

■間接1次波及効果

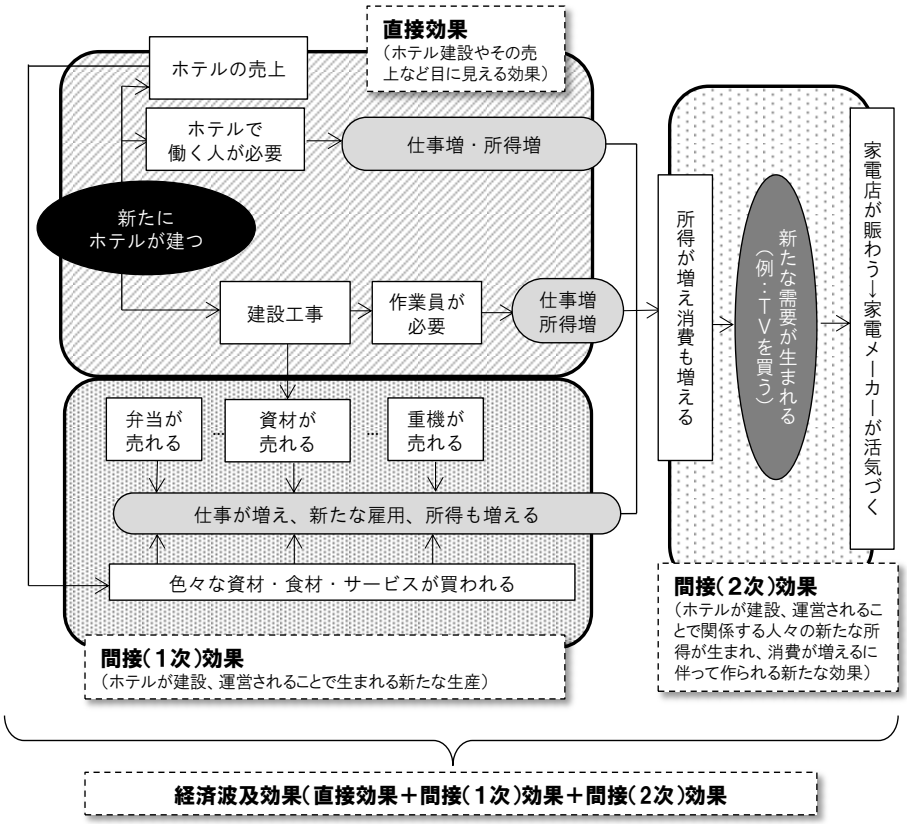
「直接効果」が生じた産業の原材料調達に伴い誘発される生産額。

■間接2次波及効果

「直接効果」と「間接第１次波及効果」に伴い発生した雇用者所得が、消費にまわることで誘発される生産額

- また、それぞれの段階で新たな雇用が生まれることになるが、これらを「雇用創出効果」として『何人分の雇用が生まれる』と表す。

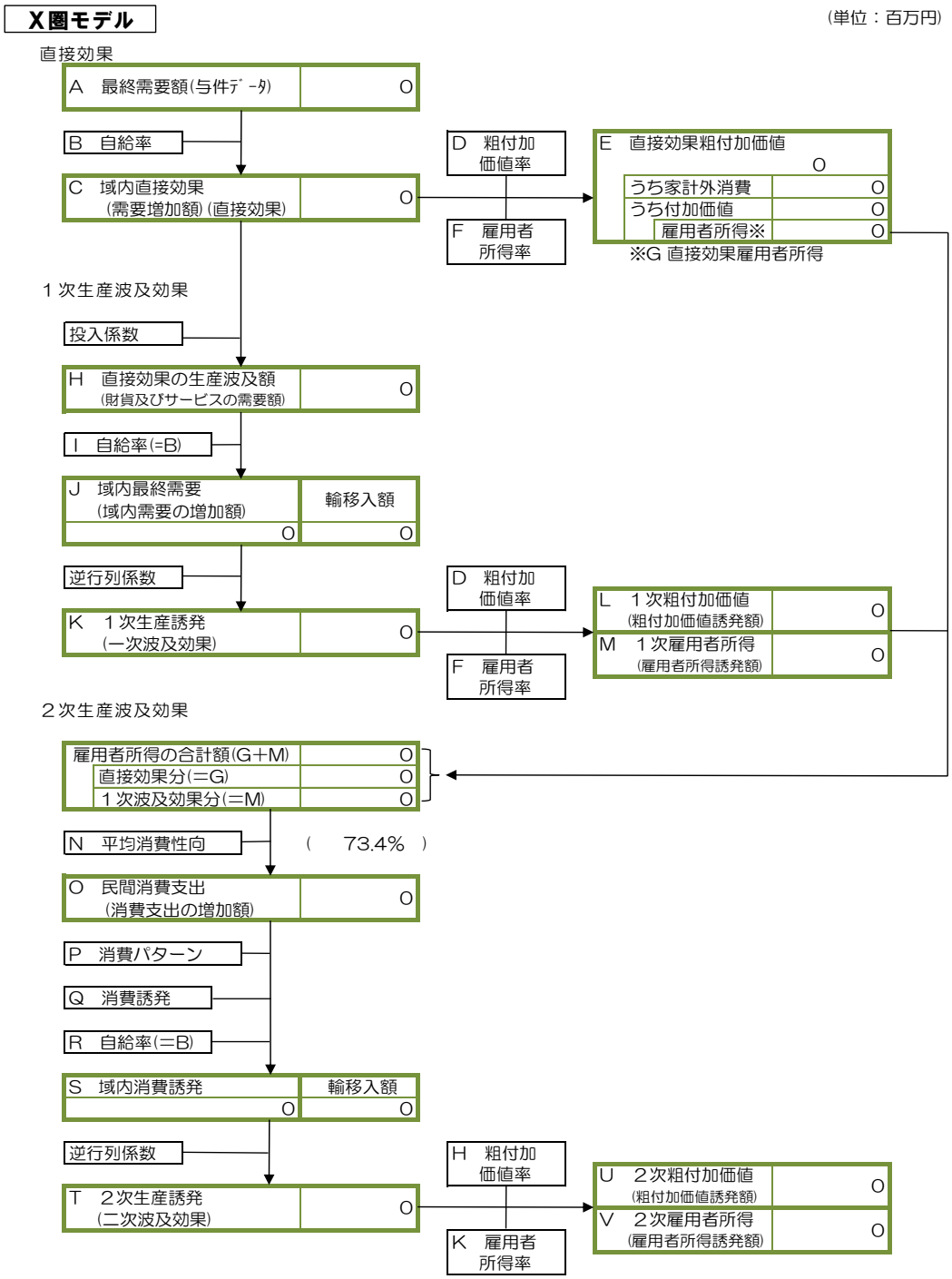
（参考）経済波及効果のイメージ図



1－2　経済波及効果の算出フロー

- 本検討においては、北海道が提供している「経済波及効果分析支援ツール」（平成24年　北海道総合政策部計画推進局）を用い、下図のフローで算出した。
- なお、北海道の「分析支援ツール」で用いている産業連関表は、「平成17年北海道産業連関表（平成22年）、平成17年北海道内地域間産業連関表（平成23年）」であり、波及効果の推計は６圏域ごとに実施できるようになっている。
- 本検討では『道南圏』モデルを使用した。

経済波及効果推計フロー



１－３　緒元（推計与件）の設定

- 先の「Ⅲ　管内来訪観光客調査」における「４－３　檜山管内での消費額・管内来訪者１人あたり消費額内訳」及び、檜山管内への観光入込客数（平成29年度　日帰り客・宿泊客数）を基に、檜山管内での観光がもたらす消費額を下表のように整理した。**【観光消費額の規模】**
- その結果、お土産・買物費が約18.4億円で最多を占め、飲食費が約15.2億円、宿泊費が約14億円など総計で約57.4億円規模になった。
- これらの分野別消費総額を経済波及効果算出の与件データとして用いて産業連関表による経済波及効果推計モデルに投入した。

■観光消費額の規模

管内入込客数（H29年度）	日帰り・通過客		宿泊客		消費額計（万円）
	923,100人		105,600人		
	消費単価	消費額（万円）	消費単価	消費額（万円）	
宿泊費	0	0	13,214	139,535	139,535
飲食費	1,217	112,375	3,736	39,451	151,826
交通費	166	15,326	2,818	29,762	45,088
お土産・買物	1,656	152,900	2,910	30,730	183,630
入場料・利用料	197	18,231	579	6,112	24,343
その他	263	24,279	478	5,043	29,322
管内消費合計	3,500	323,111	23,734	250,633	573,744

■観光消費額の産業分野（65部門）への配分

（万円）

宿泊費	対個人サービス業	139,535	178,538
入場料・利用料	対個人サービス業	24,343	
その他（50%）	対個人サービス業	14,661	
その他（50%）	商業	14,661	198,291
お土産・買物	商業	183,630	
飲食費	飲食業		151,826
交通費	運輸業		45,088

----経済波及効果推計に関する留意事項／支援ツール記載事項----------

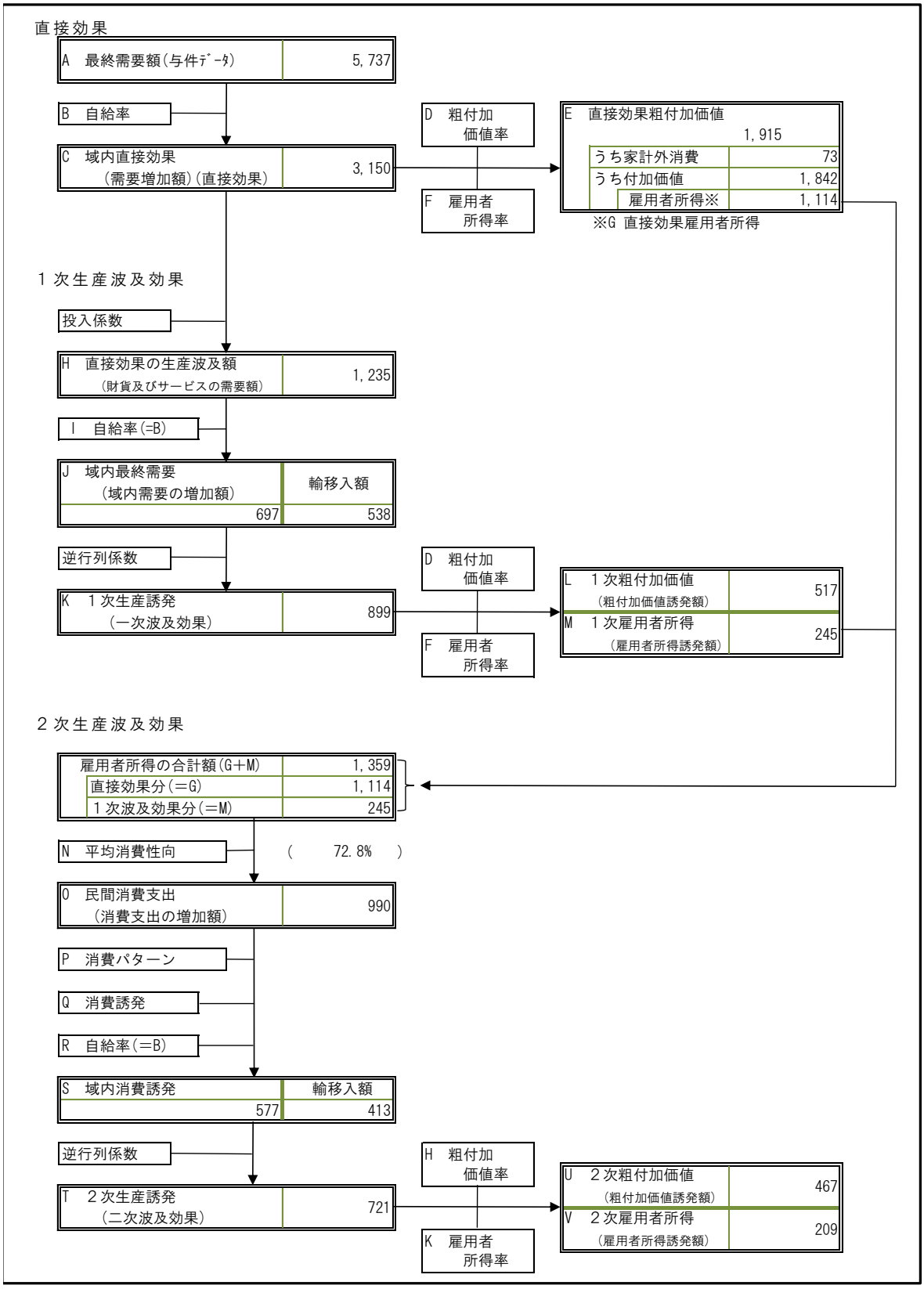
産業連関分析は、一つの経済モデルであって、その分析はある一定の仮定の下に行われています。
このため、以下のような点に留意してください。

・1つの産業は、ただ1つの生産物を生産する。
・生産水準とその投入量は規模に関して一定（規模の経済性は無い）。
・外部経済・外部不経済のような、各産業間への相互干渉は無い。
・投入係数は、短期的には変わらないものと仮定している。
・在庫調整などにより、波及が中断することはないものと仮定している。
・いつ頃、どの産業に、どの程度の波及が及ぶかは分からないものと仮定している。
・就業(雇用)誘発人数は、時間外勤務の増減による雇用調整を考慮していない。

2　経済波及効果推計結果

2－1　檜山管内観光経済波及効果フロー

《 道南圏 》　（単位：百万円）



(注)端数処理の関係で、各項目の合計値と合計項目の値が一致しない場合がある。
　　同様に、他の表の値と一致しない場合がある。

２－２　檜山管内観光経済波及効果推計の概要

■ 檜山管内の観光が平成29年度水準（日帰り客92.3万人＋宿泊客10.6万人＝合計約103万人）の入込を持ち、その観光客の消費額が約57.4億円規模であった場合、直接効果（約31.5億円）、一次波及効果（約9.0億円）、二次波及効果（約7.2億円）の合計47.7億円の生産が誘発される。これは、直接効果（約31.5億円）の1.51倍（乗数効果）の経済効果となる。

■ **生産誘発額**　　**46億円発生**
■ **ＧＤＰを**　　**30億円押し上げ**（注）家計外消費を含む
■ **これにより**　　**516人/年の新規就業を誘発**

■ 各段階の波及効果については次のように整理される。

直接効果	● 約57.4億円の観光（最終）需要に対して、直接効果は約31.5億円となる。 ● これは、最終需要の全てが圏域内で賄われるものではなく、例えばコンビニ商品の製造品や仕入れなどに典型のように、他の圏域へ効果流出があることをふまえたものである。（最終需要×自給率＝域内直接効果）
一次波及効果	● 上記の域内直接効果のうち、粗付加価値額（約19.2億円）を除いた額（約12.3億円）が基となり、各産業に新たな生産が誘発されると考えるのが、一次波及効果（約9.0億円）である。
二次波及効果	● 二次波及効果は、当該事業を通じて生まれる雇用者所得（直接効果段階と一次波及効果段階の合計＝13.6億円）の一部は、家計の消費として新たな需要を喚起するという考え方に立つものである。当該事業で見込まれる二次波及効果は約7.2億円である。
就業誘発人数 ・雇用誘発人数	● 就業誘発人数とは当該事業による生産誘発額（直接効果＋一次・二次波及効果）により就業が見込まれる人数で、雇用者と個人事業主、無給の家族従業員を指し、雇用者誘発人数は、就業誘発人数から個人事業主と無給の家族従業員を除いたものである。

（参考）生産誘発額等のまとめ

（単位：百万円）

項　　目	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	合計
生産誘発額	3,150	899	721	4,770
粗付加価値誘発額	1,915	517	467	2,899
雇用者所得誘発額	1,114	245	209	1,568

（注）端数処理の関係で、各項目の合計値と合計項目の値が一致しない場合がある。
同様に、他の表の値と一致しない場合がある。

（単位：億円、人/年）

	生産誘発額	粗付加価値誘発額	雇用者所得誘発額	就業誘発人数	雇用者誘発人数
直接効果	32	－	－	388	347
1次生産誘発効果	8	－	－	68	54
2次生産誘発効果	6	－	－	60	51
合　計	46	30	16	516	452

（注）四捨五入の関係で、内訳の合計と合計項目の値が一致しないことがある。

（参考）

・　波及効果の分析には北海道開発局「平成１７年北海道内地域間産業連関表」（６５部門表）を使用
・　実体経済においては、生産に増減があった場合、一人あたりの就業時間を増減させることで対応することも考えられるため、すぐに雇用の増減に結びつくわけではないことに留意。

■部門別生産誘発額推計　※産業13部門に集約

（単位：億円）

部門分類	与件ﾃﾞｰﾀ	生産誘発額				粗付加価値誘発額	雇用者所得誘発額
	最終需要額	直接効果	1次生産誘発効果	2次生産誘発効果	合　計		
農　業	0	0	0	0	0	0	0
林　業	0	0	0	0	0	0	0
漁　業	0	0	0	0	0	0	0
鉱　業	0	0	0	0	0	0	0
製造業	0	0	1	1	2	1	0
建設業	0	0	0	0	0	0	0
電気・ガス・水道	0	0	1	0	1	1	0
商　業	20	11	1	1	13	10	6
金融・保険・不動産	0	0	2	2	4	3	1
運輸・情報通信	5	1	1	0	2	1	1
公　務	0	0	0	0	0	0	0
サービス業	33	20	2	2	24	14	8
分類不明	0	0	0	0	0	0	0
合　計	58	32	8	6	46	30	16

(注)四捨五入の関係で、内訳の合計と合計項目の値が一致しないことがある。

■部門別就業（雇用）誘発人数推計　※産業13部門に集約

（単位：人/年）

部門分類	就業誘発人数				左のうち雇用誘発人数※			
	直接効果	1次生産誘発効果	2次生産誘発効果	合　計	直接効果	1次生産誘発効果	2次生産誘発効果	合　計
農　業	0	6	2	8	0	1	0	1
林　業	0	0	0	0	0	0	0	0
漁　業	0	2	0	2	0	1	0	1
鉱　業	0	0	0	0	0	0	0	0
製造業	0	6	3	9	0	6	2	8
建設業	0	2	1	3	0	1	1	2
電気・ガス・水道	0	4	1	5	0	3	1	4
商　業	152	18	19	189	139	16	17	172
金融・保険・不動産	0	4	5	9	0	3	4	7
運輸・情報通信	6	6	3	15	6	5	3	14
公　務	0	0	0	0	0	0	0	0
サービス業	230	20	26	276	202	18	23	243
分類不明	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	388	68	60	516	347	54	51	452

(注)四捨五入の関係で、内訳の合計と合計項目の値が一致しないことがある。

※雇用者数は、就業者数から個人事業主及び無給家族従業者を除くもの。

２－３　檜山管内観光入込「10%増」の場合

- ここでは檜山管内の観光入込数が、平成29年度水準から10%＝約10万人拡大（日帰り客101.5万人＋宿泊客11.6万人＝合計約113万人）した場合の試算を行った。
- その入込規模での観光客消費額は約63.1億円規模となり、直接効果は現状の約31.5億円から約34.7億円へと3億円強拡大する。
- また、一次波及効果も約9.0億円から約10億円に、二次波及効果も約7.2億円から約8億円に拡大する。
- 経済波及効果は合計47.7億円から52.5億円へと、約5億円以上の生産誘発拡大となる。また、就業誘発人数は約50人増となる。

■観光入込数が10%増加した場合の消費額の規模

管内入込客数（H29年度）	日帰り・通過客		宿泊客		消費額計（万円）
	1,015,410人		116,160人		
	消費単価	消費額（万円）	消費単価	消費額（万円）	
宿泊費	0	0	13,214	153,488	153,488
飲食費	1,217	123,613	3,736	43,396	167,009
交通費	166	16,859	2,818	32,738	49,597
お土産・買物	1,656	168,190	2,910	33,803	201,993
入場料・利用料	197	20,054	579	6,723	26,777
その他	263	26,707	478	5,547	32,254
管内消費合計	3,500	355,422	23,734	275,696	631,118

- **生産誘発額　51億円発生**
- **ＧＤＰを　31億円押し上げ**（注）家計外消費を含む
- **これにより　566人/年の新規就業を誘発**

（参考）生産誘発額等のまとめ

（単位：百万円）

項　目	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	合計
生産誘発額	3,465	989	793	5,247
粗付加価値誘発額	2,106	569	513	3,188
雇用者所得誘発額	1,226	269	230	1,725

（注）端数処理の関係で、各項目の合計値と合計項目の値が一致しない場合がある。
同様に、他の表の値と一致しない場合がある。

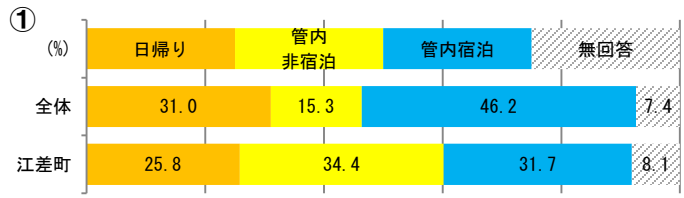
Ⅶ　個別町村結果

既に、各分析編で各町のポジショニング等を行っているので、ここではプロフィールに特化して整理している。

1　江差町について

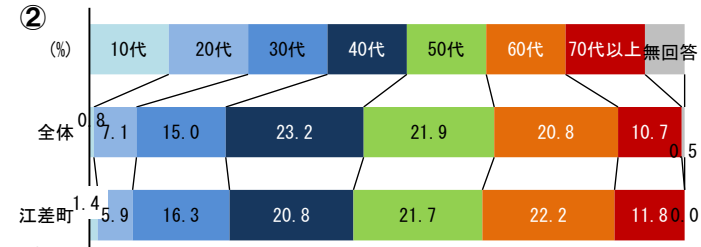
①来訪者の旅行形態

- 「（宿泊旅行だが）管内には泊まらない」来訪者が多い。
- 全体の26%は「日帰り客」。



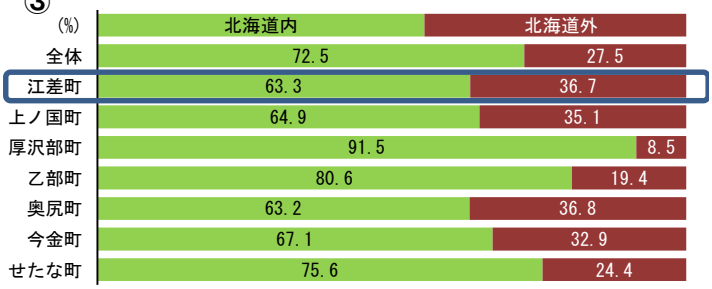
②来訪者の年代

- 管内平均とほぼ近似。
- 30代までの若い世代は30%以下に留まる。



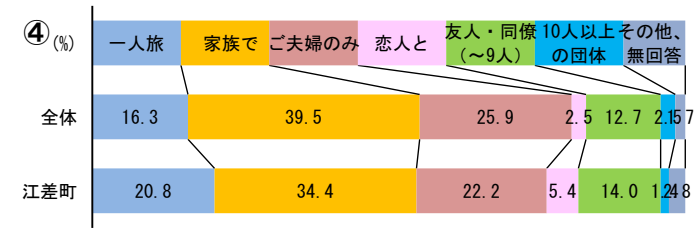
③来訪者の居住地分布

- 管内でも「道外客」が多いエリアだが、それでもその割合は37%程度。



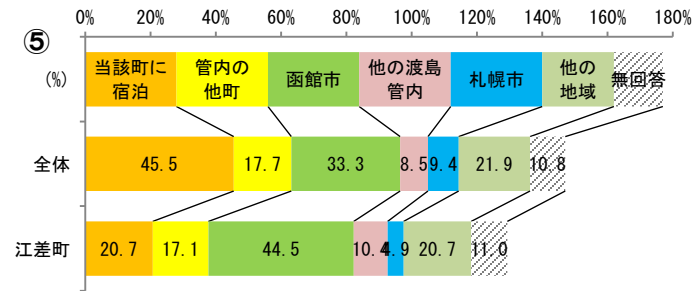
④来訪者の同伴形態

- 中心は「家族で」である。
- 「一人旅」と「友人・同僚（9人以下）」が管内平均より多い。



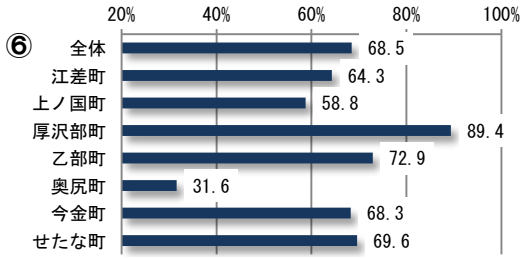
⑤来訪者はどこに宿泊しているか

- 宿泊旅行者のうち、町内に宿泊（当該地に宿泊）している割合は20.7%に留まる。
- 他町に比べて「函館市に宿泊」の割合が多い。



⑥リピーター率

- 64.3%で管内平均よりやや低い。



⑦来訪目的

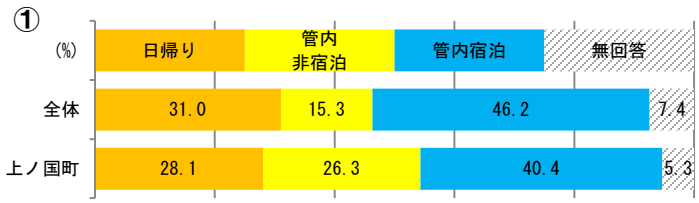
- 「景色を楽しむ」・「名所旧跡を訪ねる」が多く、「温泉・保養」が少ないエリア。

⑦ (%)		サンプル数	海・山・川遊び	景色を楽しむ	名所・旧跡を訪ねる	街並みを楽しむ	産業遺産を見る	温泉・保養	農漁業体験	特産品を買う・食べる	スポーツ	キャンプ	祭り・催事	集会・大会などの参加	ドライブ	知人・親戚訪問	その他	無回答
全体		835	17.8	27.8	13.5	9.9	1.9	20.4	0.4	23.0	2.3	4.2	6.3	1.3	23.4	8.1	17.8	1.7
地域	江差町	221	10.9	34.8	20.4	19.0	3.6	9.5	0.5	21.3	2.7	2.7	4.1	3.2	24.4	11.3	20.4	1.4
	上ノ国町	114	5.3	37.7	23.7	16.7	1.8	20.2	0.0	28.1	3.5	0.9	4.4	0.0	32.5	4.4	14.9	1.8
	厚沢部町	94	12.8	19.1	2.1	2.1	0.0	12.8	0.0	41.5	0.0	3.2	3.2	0.0	42.6	4.3	9.6	2.1
	乙部町	144	43.8	16.7	11.1	6.9	2.1	20.8	0.0	12.5	1.4	3.5	3.5	0.7	13.2	4.2	21.5	0.7
	奥尻町	19	15.8	84.2	36.8	0.0	0.0	63.2	0.0	42.1	0.0	5.3	5.3	0.0	21.1	5.3	10.5	0.0
	今金町	79	8.9	21.5	12.7	3.8	1.3	31.6	1.3	8.9	3.8	5.1	13.9	3.8	8.9	11.4	29.1	2.5
	せたな町	164	20.7	22.6	3.7	4.3	1.2	28.7	0.6	25.0	2.4	9.1	11.6	0.0	20.7	11.0	13.4	2.4

2　上ノ国町について

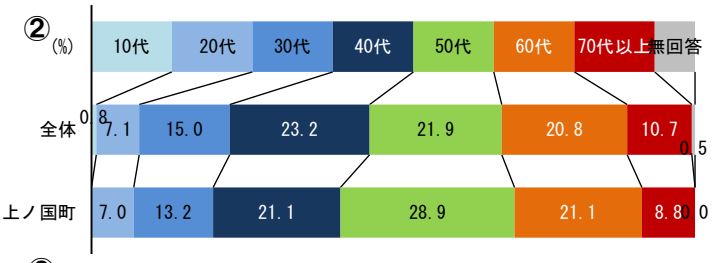
①来訪者の旅行形態

- 「（宿泊旅行だが）管内には泊まらない」来訪者が多く、通過型。
- 全体の28%は「日帰り客」。



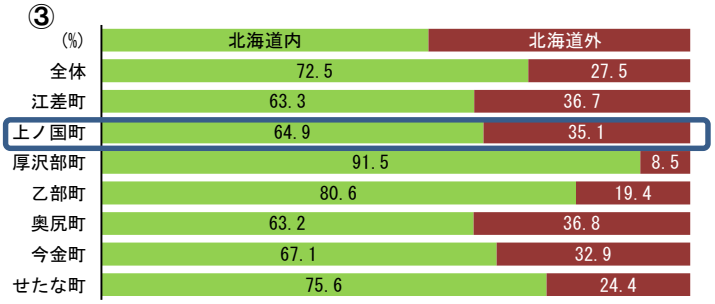
②来訪者の年代

- 管内平均より50代の割合が多い。
- 30代までの若い世代は20%程度と少ない。



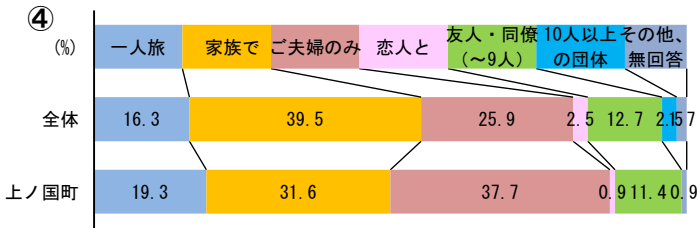
③来訪者の居住地分布

- 管内でも「道外客」が多いエリアだが、それでもその割合は35%程度。7割近くは道内客。



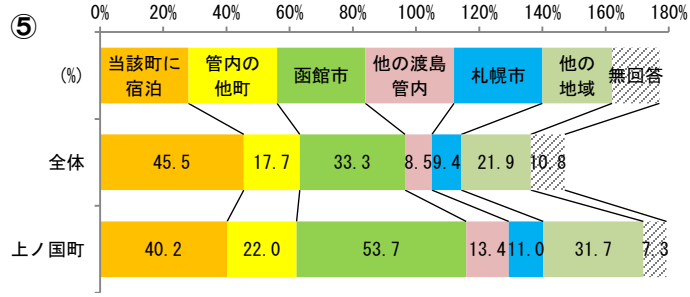
④来訪者の同伴形態

- 中心は「ご夫婦のみ」である点に特徴。



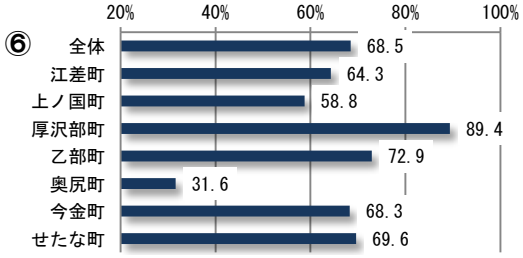
⑤来訪者はどこに宿泊しているか

- 宿泊旅行者のうち、町内に宿泊（当該地に宿泊）している割合は40.2%と多い。
- また、他町に比べて「函館市に宿泊」の割合も多い。



⑥来訪目的

- 「温泉・保養」、「特産品を買う、食べる」割合が他町より多いエリア。

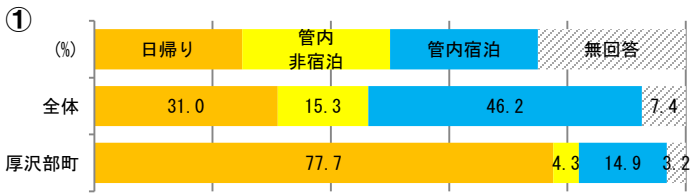


⑦ (%)		サンプル数	海・山・川遊び	景色を楽しむ	名所・旧跡を訪ねる	街並みを楽しむ	産業遺産を見る	温泉・保養	農漁業体験	特産品を買う・食べる	スポーツ	キャンプ	祭り・催事	集会・大会などの参加	ドライブ	知人・親戚訪問	その他	無回答
全体		835	17.8	27.8	13.5	9.9	1.9	20.4	0.4	23.0	2.3	4.2	6.3	1.3	23.4	8.1	17.8	1.7
地域	江差町	221	10.9	34.8	20.4	19.0	3.6	9.5	0.5	21.3	2.7	2.7	4.1	3.2	24.4	11.3	20.4	1.4
	上ノ国町	114	5.3	37.7	23.7	16.7	1.8	20.2	0.0	28.1	3.5	0.9	4.4	0.0	32.5	4.4	14.9	1.8
	厚沢部町	94	12.8	19.1	2.1	2.1	0.0	12.8	0.0	41.5	0.0	3.2	3.2	0.0	42.6	4.3	9.6	2.1
	乙部町	144	43.8	16.7	11.1	6.9	2.1	20.8	0.0	12.5	1.4	3.5	3.5	0.7	13.2	4.2	21.5	0.7
	奥尻町	19	15.8	84.2	36.8	0.0	0.0	63.2	0.0	42.1	0.0	5.3	5.3	0.0	21.1	5.3	10.5	0.0
	今金町	79	8.9	21.5	12.7	3.8	1.3	31.6	1.3	8.9	3.8	5.1	13.9	3.8	8.9	11.4	29.1	2.5
	せたな町	164	20.7	22.6	3.7	4.3	1.2	28.7	0.6	25.0	2.4	9.1	11.6	0.0	20.7	11.0	13.4	2.4

3　厚沢部町について

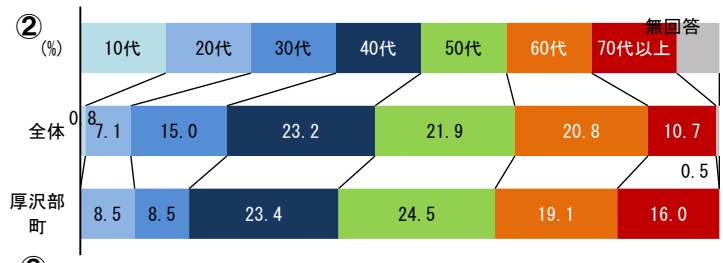
①来訪者の旅行形態

- 圧倒的に「日帰り」でレジャーを楽しむ人が多い。



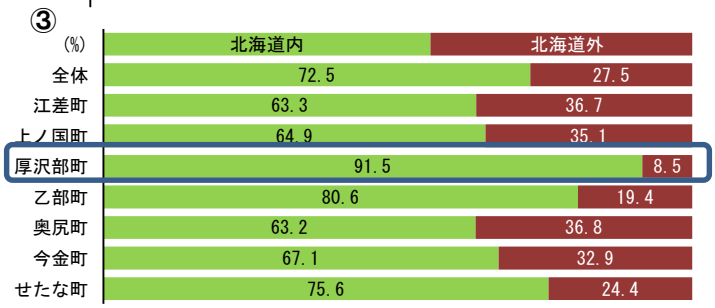
②来訪者の年代

- 30代までの若い世代が20%以下と、かなり少ない。
- 全般に50代以上の中高齢層の来訪が多い。



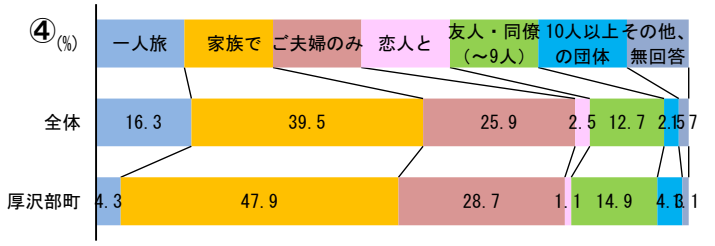
③来訪者の居住地分布

- ほとんどが「道内客」で占められる。（特に函館などの渡島管内）。
- 「道外客」は１割未満と少ない。



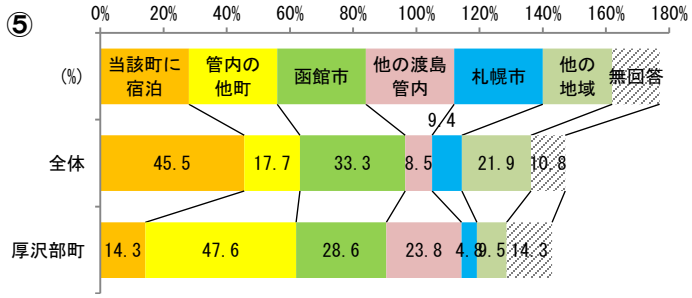
④来訪者の同伴形態

- 半数が「家族で」で、「夫婦のみ」も多い。
- 「一人旅」は極端に少ない。



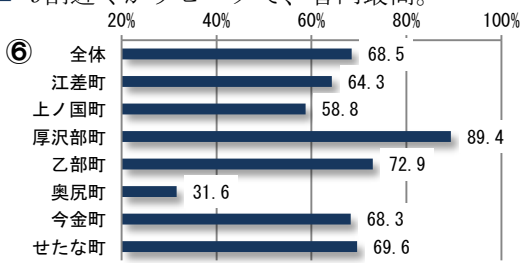
⑤来訪者はどこに宿泊しているか

- 宿泊旅行者のうち、町内に宿泊（当該地に宿泊）している割合は14%と少なく、半数は「管内の他町」に宿泊。



⑥リピーター率

- 9割近くがリピータで、管内最高。



⑦来訪目的

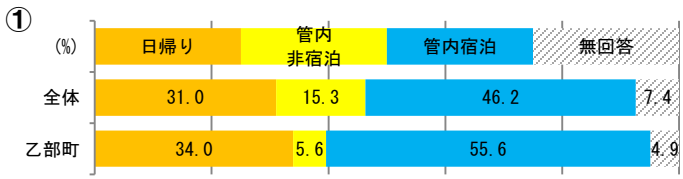
- 圧倒的に「特産品を買う、食べる」が多く、「ドライブ」も多い。…道の駅の強み。

⑦ (%)		サンプル数	海・山・川遊び	景色を楽しむ	名所・旧跡を訪ねる	街並みを楽しむ	産業遺産を見る	温泉・保養	農漁業体験	特産品を買う・食べる	スポーツ	キャンプ	祭り・催事	集会・大会などの参加	ドライブ	知人・親戚訪問	その他	無回答
全体		835	17.8	27.8	13.5	9.9	1.9	20.4	0.4	23.0	2.3	4.2	6.3	1.3	23.4	8.1	17.8	1.7
地域	江差町	221	10.9	34.8	20.4	19.0	3.6	9.5	0.5	21.3	2.7	2.7	4.1	3.2	24.4	11.3	20.4	1.4
	上ノ国町	114	5.3	37.7	23.7	16.7	1.8	20.2	0.0	28.1	3.5	0.9	4.4	0.0	32.5	4.4	14.9	1.8
	厚沢部町	94	12.8	19.1	2.1	2.1	0.0	12.8	0.0	41.5	0.0	3.2	3.2	0.0	42.6	4.3	9.6	2.1
	乙部町	144	43.8	16.7	11.1	6.9	2.1	20.8	0.0	12.5	1.4	3.5	3.5	0.7	13.2	4.2	21.5	0.7
	奥尻町	19	15.8	84.2	36.8	0.0	0.0	63.2	0.0	42.1	0.0	5.3	5.3	0.0	21.1	5.3	10.5	0.0
	今金町	79	8.9	21.5	12.7	3.8	1.3	31.6	1.3	8.9	3.8	5.1	13.9	3.8	8.9	11.4	29.1	2.5
	せたな町	164	20.7	22.6	3.7	4.3	1.2	28.7	0.6	25.0	2.4	9.1	11.6	0.0	20.7	11.0	13.4	2.4

4　乙部町について

①来訪者の旅行形態

- 来訪者の半数以上は「管内宿泊者」である。
- 全体の34%は「日帰り客」。

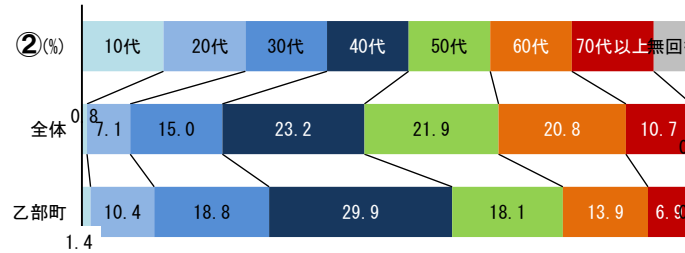


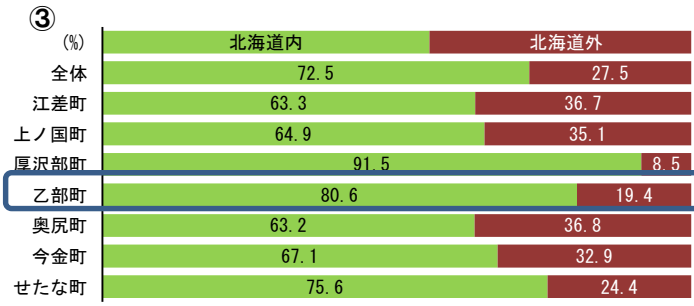
②来訪者の年代

- 管内平均に比べて40代が多い。
- 30代までの若い世代も30%程度で、管内平均より多い。

③来訪者の居住地分布

- 8割が「道内客」で、管内でも「道外者」が少ないエリアで、その割合は2割以下。





④来訪者の同伴形態

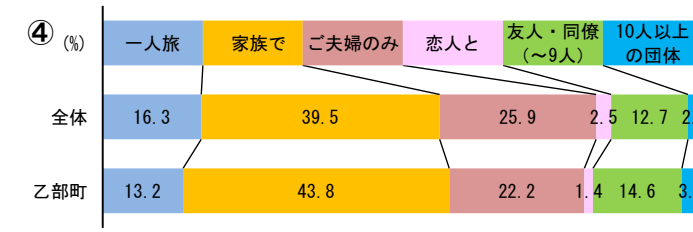
- 半数近くは「家族で」である。
- 「友人・同僚（9人以下）」も管内平均より若干多い。

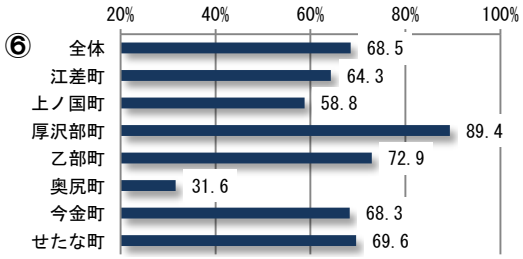
⑤来訪者はどこに宿泊しているか

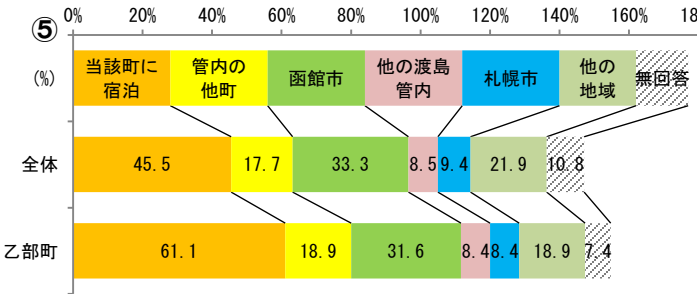
- 宿泊旅行者のうち、町内に宿泊（当該地に宿泊）している割合は61%と比較的高い。
- それでも「函館市に宿泊」の割合が3割ある。

⑥リピーター率

- 72.9%で管内平均よりやや低い。







⑦来訪目的

- 半数近くは「海、山、川遊び」で、「景色を楽しむ」や「特産品を買う、食べる」は少ないエリア。

⑦ (%)		サンプル数	海・山・川遊び	景色を楽しむ	名所・旧跡を訪ねる	街並みを楽しむ	産業遺産を見る	温泉・保養	農漁業体験	特産品を買う・食べる	スポーツ	キャンプ	祭り・催事	集会・大会などの参加	ドライブ	知人・親戚訪問	その他	無回答
全体		835	17.8	27.8	13.5	9.9	1.9	20.4	0.4	23.0	2.3	4.2	6.3	1.3	23.4	8.1	17.8	1.7
地域	江差町	221	10.9	34.8	20.4	19.0	3.6	9.5	0.5	21.3	2.7	2.7	4.1	3.2	24.4	11.3	20.4	1.4
	上ノ国町	114	5.3	37.7	23.7	16.7	1.8	20.2	0.0	28.1	3.5	0.9	4.4	0.0	32.5	4.4	14.9	1.8
	厚沢部町	94	12.8	19.1	2.1	2.1	0.0	12.8	0.0	41.5	0.0	3.2	3.2	0.0	42.6	4.3	9.6	2.1
	乙部町	144	43.8	16.7	11.1	6.9	2.1	20.8	0.0	12.5	1.4	3.5	3.5	0.7	13.2	4.2	21.5	0.7
	奥尻町	19	15.8	84.2	36.8	0.0	0.0	63.2	0.0	42.1	0.0	5.3	5.3	0.0	21.1	5.3	10.5	0.0
	今金町	79	8.9	21.5	12.7	3.8	1.3	31.6	1.3	8.9	3.8	5.1	13.9	3.8	8.9	11.4	29.1	2.5
	せたな町	164	20.7	22.6	3.7	4.3	1.2	28.7	0.6	25.0	2.4	9.1	11.6	0.0	20.7	11.0	13.4	2.4

5　奥尻町について

①来訪者の旅行形態

- 離島であることから、全員が「管内宿泊」である。

②来訪者の年代

- 管内平均に比べて40代の割合が大きいが、60代、70代の高齢層が少ない。
- 離島＝交通の困難さが高齢層から忌避されている可能性がある。

③来訪者の居住地分布

- 「道内客」と「道外客」の割合は２：１。
- 管内でも「道外者」が多いエリア。

④来訪者の同伴形態

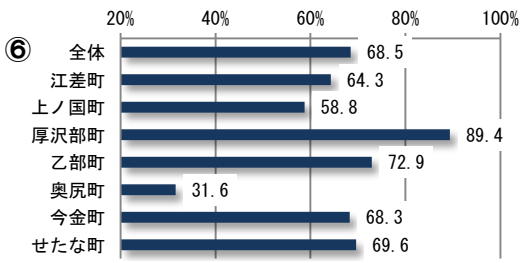
- 半数強は「家族で」の来訪である。
- 「一人旅」と「夫婦のみ」は管内平均より少ない。

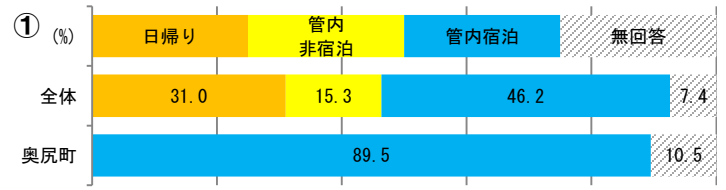
⑤来訪者はどこに宿泊しているか

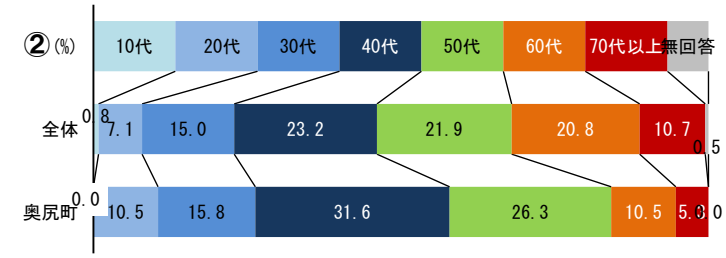
- 全員が町内に宿泊（図の数値には回答者の誤答が含まれる）するが、他の地域（渡島・檜山以外の）他の地域に宿泊する者も3割いる。これはほぼ、道外者の動きである。

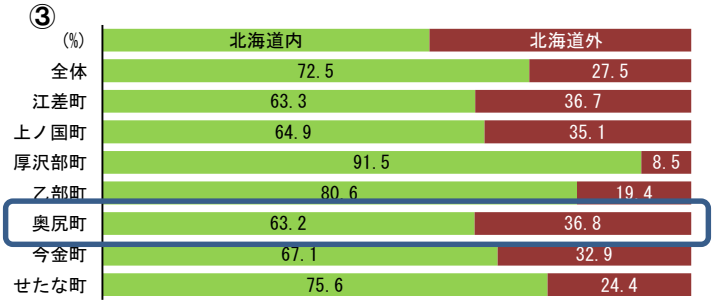
⑥リピーター率

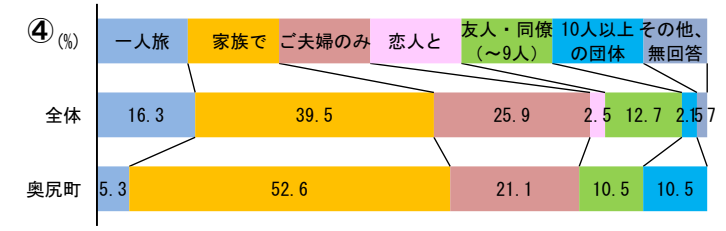
- 31.6%で管内平均よりかなり低く、2/3が初めての来訪である。

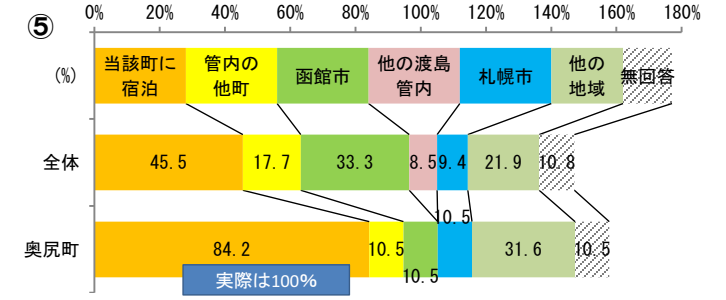












⑦来訪目的

- 圧倒的に「景色を楽しむ」、「温泉・保養」が多く、「特産品を買う・食べる」、「名所旧跡を訪ねる」も多い。

⑦ (%)		サンプル数	海・山・川遊び	景色を楽しむ	名所・旧跡を訪ねる	街並みを楽しむ	産業遺産を見る	温泉・保養	農漁業体験	特産品を買う・食べる	スポーツ	キャンプ	祭り・催事	集会・大会などの参加	ドライブ	知人・親戚訪問	その他	無回答
全体		835	17.8	27.8	13.5	9.9	1.9	20.4	0.4	23.0	2.3	4.2	6.3	1.3	23.4	8.1	17.8	1.7
地域	江差町	221	10.9	34.8	20.4	19.0	3.6	9.5	0.5	21.3	2.7	2.7	4.1	3.2	24.4	11.3	20.4	1.4
	上ノ国町	114	5.3	37.7	23.7	16.7	1.8	20.2	0.0	28.1	3.5	0.9	4.4	0.0	32.5	4.4	14.9	1.8
	厚沢部町	94	12.8	19.1	2.1	2.1	0.0	12.8	0.0	41.5	0.0	3.2	3.2	0.0	42.6	4.3	9.6	2.1
	乙部町	144	43.8	16.7	11.1	6.9	2.1	20.8	0.0	12.5	1.4	3.5	3.5	0.7	13.2	4.2	21.5	0.7
	奥尻町	19	15.8	84.2	36.8	0.0	0.0	63.2	0.0	42.1	0.0	5.3	5.3	0.0	21.1	5.3	10.5	0.0
	今金町	79	8.9	21.5	12.7	3.8	1.3	31.6	1.3	8.9	3.8	5.1	13.9	3.8	8.9	11.4	29.1	2.5
	せたな町	164	20.7	22.6	3.7	4.3	1.2	28.7	0.6	25.0	2.4	9.1	11.6	0.0	20.7	11.0	13.4	2.4

6　今金町について

①来訪者の旅行形態

- 8割は「管内の宿泊」型の来訪者。

②来訪者の年代

- 60代、70代以上の高齢層が多い。
- 30代までの若い世代は20%以下で、管内平均より少ない。

③来訪者の居住地分布

- 「道外客」が1/3を占め、比較的多いエリア。

④来訪者の同伴形態

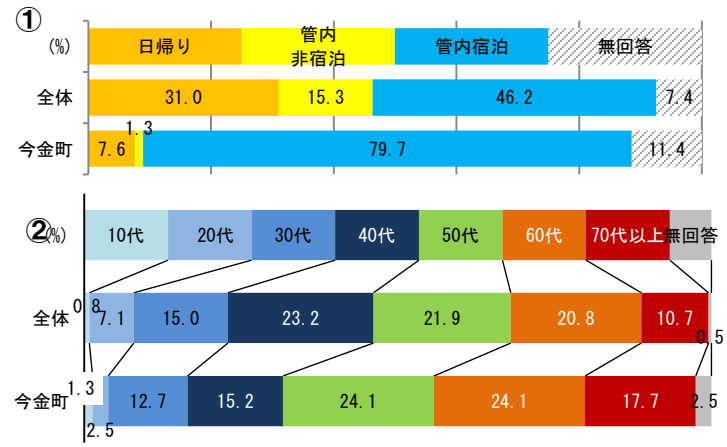
- 中心は「家族で」であるが、管内平均に比べ「一人旅」が多い。

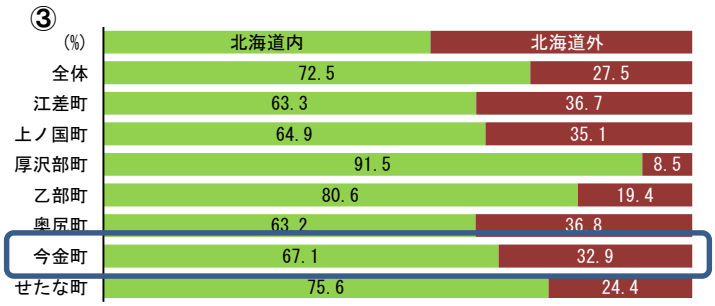
⑤来訪者はどこに宿泊しているか

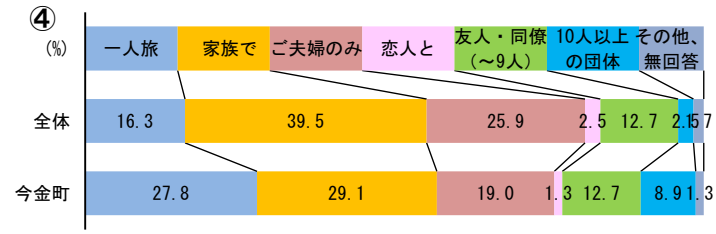
- 宿泊旅行者のうち、町内に宿泊（当該地に宿泊）している割合は71.2%に上る。

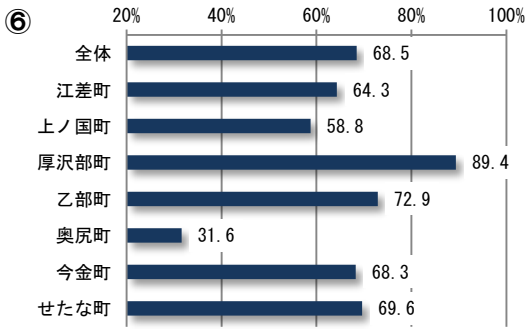
⑥リピーター率

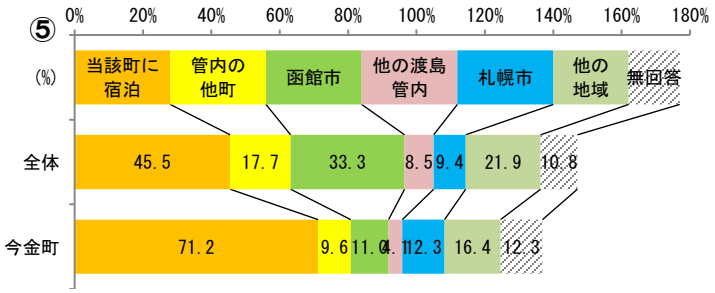
- 68.3%で管内平均並みである。











⑦来訪目的

- 「景色を楽しむ」・「温泉・保養」が主だが、際立った数値（目的）が見当たらないエリア。

⑦ (%)		サンプル数	海・山・川遊び	景色を楽しむ	名所・旧跡を訪ねる	街並みを楽しむ	産業遺産を見る	温泉・保養	農漁業体験	特産品を買う・食べる	スポーツ	キャンプ	祭り・催事	集会・大会などの参加	ドライブ	知人・親戚訪問	その他	無回答
全体		835	17.8	27.8	13.5	9.9	1.9	20.4	0.4	23.0	2.3	4.2	6.3	1.3	23.4	8.1	17.8	1.7
地域	江差町	221	10.9	34.8	20.4	19.0	3.6	9.5	0.5	21.3	2.7	2.7	4.1	3.2	24.4	11.3	20.4	1.4
	上ノ国町	114	5.3	37.7	23.7	16.7	1.8	20.2	0.0	28.1	3.5	0.9	4.4	0.0	32.5	4.4	14.9	1.8
	厚沢部町	94	12.8	19.1	2.1	2.1	0.0	12.8	0.0	41.5	0.0	3.2	3.2	0.0	42.6	4.3	9.6	2.1
	乙部町	144	43.8	16.7	11.1	6.9	2.1	20.8	0.0	12.5	1.4	3.5	3.5	0.7	13.2	4.2	21.5	0.7
	奥尻町	19	15.8	84.2	36.8	0.0	0.0	63.2	0.0	42.1	0.0	5.3	5.3	0.0	21.1	5.3	10.5	0.0
	今金町	79	8.9	21.5	12.7	3.8	1.3	31.6	1.3	8.9	3.8	5.1	13.9	3.8	8.9	11.4	29.1	2.5
	せたな町	164	20.7	22.6	3.7	4.3	1.2	28.7	0.6	25.0	2.4	9.1	11.6	0.0	20.7	11.0	13.4	2.4

7　せたな町について

①来訪者の旅行形態

- 「（宿泊旅行だが）管内には泊まらない」通過型来訪者は少なく、半数は「管内宿泊」である。
- 全体の26%は「日帰り客」。

②来訪者の年代

- 管内平均とほぼ近似しているが、60代がやや多い。
- 30代までの若い世代は30%以下と少ない。

③来訪者の居住地分布

- 「道外客」は1/4程度で、北部の中では少ないエリアで、「道内客」主体。

④来訪者の同伴形態

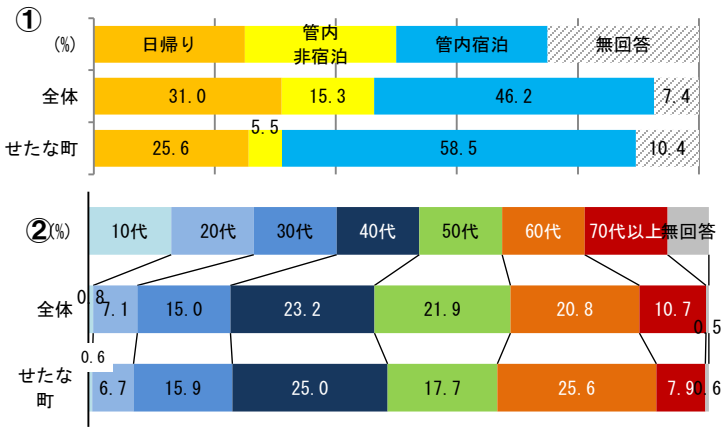
- 中心は半数近くを占める「家族で」。
- 「一人旅」は管内平均よりやや少ない。

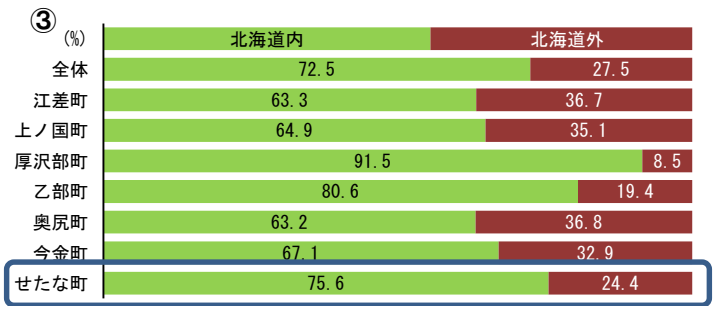
⑤来訪者はどこに宿泊しているか

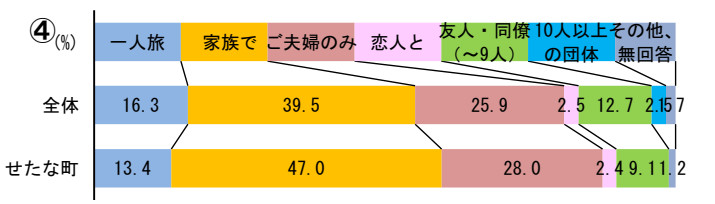
- 宿泊旅行者のうち、町内に宿泊（当該地に宿泊）している割合は、半数強の54.1%。
- 他町に比べて「函館市に宿泊」の割合が少ない。

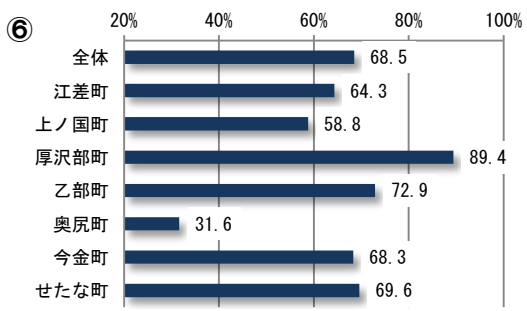
⑥リピーター率

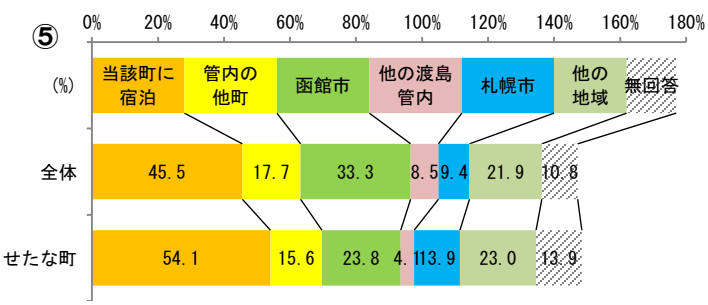
- 69.6%で、ほぼ管内平均並み。











⑦来訪目的

- 「温泉・保養」、「景色を楽しむ」・「海・山・川遊び」などが多いが、今金町と同様に際立った数値（目的）が見当たらないエリア。

(%)		サンプル数	海・山・川遊び	景色を楽しむ	名所・旧跡を訪ねる	街並みを楽しむ	産業遺産を見る	温泉・保養	農漁業体験	特産品を買う・食べる	スポーツ	キャンプ	祭り・催事	集会・大会などの参加	ドライブ	知人・親戚訪問	その他	無回答
全体		835	17.8	27.8	13.5	9.9	1.9	20.4	0.4	23.0	2.3	4.2	6.3	1.3	23.4	8.1	17.8	1.7
地域	江差町	221	10.9	34.8	20.4	19.0	3.6	9.5	0.5	21.3	2.7	2.7	4.1	3.2	24.4	11.3	20.4	1.4
	上ノ国町	114	5.3	37.7	23.7	16.7	1.8	20.2	0.0	28.1	3.5	0.9	4.4	0.0	32.5	4.4	14.9	1.8
	厚沢部町	94	12.8	19.1	2.1	2.1	0.0	12.8	0.0	41.5	0.0	3.2	3.2	0.0	42.6	4.3	9.6	2.1
	乙部町	144	43.8	16.7	11.1	6.9	2.1	20.8	0.0	12.5	1.4	3.5	3.5	0.7	13.2	4.2	21.5	0.7
	奥尻町	19	15.8	84.2	36.8	0.0	0.0	63.2	0.0	42.1	0.0	5.3	5.3	0.0	21.1	5.3	10.5	0.0
	今金町	79	8.9	21.5	12.7	3.8	1.3	31.6	1.3	8.9	3.8	5.1	13.9	3.8	8.9	11.4	29.1	2.5
	せたな町	164	20.7	22.6	3.7	4.3	1.2	28.7	0.6	25.0	2.4	9.1	11.6	0.0	20.7	11.0	13.4	2.4

Ⅷ　提　言

1　檜山管内の観光分野における強み・課題

１－１　檜山の強み

- 檜山管内は道内の中でも優れた自然景観と農水産物に恵まれた圏域である。
- また。７町のほとんどが日本海に面し、海と山の両側面の観光資源を有することや、ほぼ全域に「温泉」という自然の恵みがあることも優位点として挙げられる。
- さらに、３０万都市であり、北海道観光の一大拠点である函館エリアに接することも極めて優位な要素と言える。

１－２　檜山の弱み・課題

- 檜山管内の弱み・課題の根源は《交通利便性》《宿泊機能の脆弱さ》にあった。
- 前者の《交通利便性》については、北海道縦貫自動車道の延伸や、北海道新幹線開業後によって、函館エリアの優位性は生じたものの、当圏域へのアクセスは根本的に変化がない。
- また、後者の《宿泊施設》については、７町に分散して配置されているものの、宿泊拠点となり得る町が存在しないという弱みがあること、さらにはかつての「１町１温泉ホテル」時代エリアに設置された宿泊施設の多くが、老朽化・新鮮味の欠如などによってポテンシャルを低下させている。
- 加えて、奥尻町の大型施設閉鎖（予定）などは、この弱みをさらに増幅させかねない。

１－３　観光入込客数の推移から見えた課題　※次頁表参照

- 観光客数の動きから、北海道新幹線開業に伴う一連のキャンペーン等により、道外客の入込は一定の回復をもたらしたものの、一方で主力となる「道内客」の入込が低迷を続けている。
- また、依然として管内入込客の９割は「日帰り」客であり、「滞在型」への強化が求められる。
- その他、管内入込が「江差町」に偏っており、管内全体への周遊促進の重要性も指摘された。
- 加えて、全道的には急速に増加を続けているインバウンド対策についても極めて脆弱な実態が示されている。管内のインバウンド入込は年間で数百人規模に留まっており、まさに“インバウンドから忘れられたエリア”状態になっている。

【再掲】檜山管内観光入込客数資料からみる課題抽出

管内観光の概況		課題（テーマ）
1　観光客数の推移から	● 北海道新幹線開業は、道外客数を増加させたものの、観光客数全体としての増加はなく、その効果は限定的となっている。	**道内客の取り込み**
2　宿泊客数の推移から	● 北海道新幹線開業後の道外客増加に伴い、宿泊客が4年ぶりに10万人の大台を超え、宿泊者比率も10%台に乗せた。 ● しかし、依然として90%は日帰り客である傾向は変わらない。	**滞在型の促進**
3　７町の動きから	● 近年、堅調に入込数を増やしているのは厚沢部町のみ。 ● せたな町も平成25年まで続いた減少傾向から増加に転じている。 ● 江差町は北海道新幹線開業効果によって入込を回復したが、その効果持続性が問われている。 ● ７町の観光資源の多くはイベント、屋外レジャーなどに依拠する形であるが、いずれも天候などに左右される傾向が強い。	**天候に左右されにくい通年型観光振興**

次頁に続く

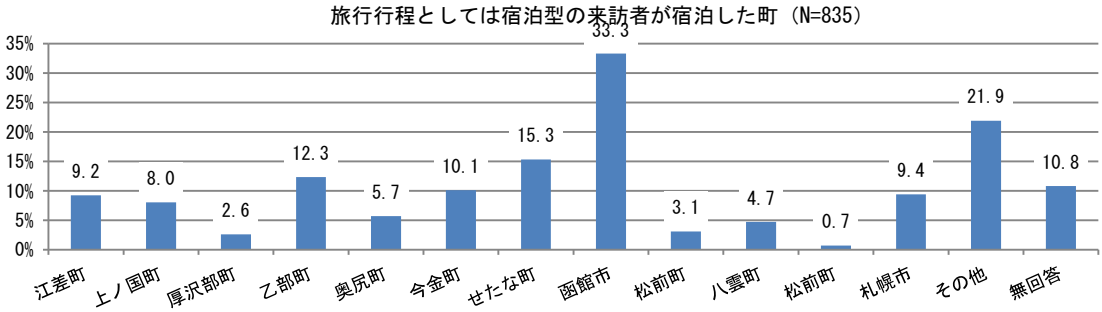
前頁から続き

	管内観光の概況	課題（テーマ）
4　７町の道外客入込動向から	● 管内に入込む道外客の７割は江差町が占めており、他町、特に中北部への入込数が極端に少ない。 ● 北海道新幹線開業後は、さらにこの偏重が強まった。	**道外客の江差町偏在化の解消（管内周遊促進）**
5　７町の宿泊客入込動向から	● ７町のうち、宿泊客割合が10%を超えるのは奥尻町、今金町、乙部町のみであるが、今金、乙部両町も8割以上は日帰り客。 ● （奥尻町を除き）全町で滞在性は弱い。	**全町での滞在化促進**
6　７町の季節別入込動向から	● 管内全体では6割が「夏（6～9月）」で占められ、特に秋（10～11月）、冬（12～3月）の入込が弱く、“半年観光地”の様相を呈している。 ● ７町のうち、最も入込数が大きい江差では、「夏」偏重の傾向も最も強い。 ● 唯一、スキー場を利した今金町が入込数の3割を冬場に集客していること、桜・ツツジを活かして年間入込の1/3を「春」に集客している上ノ国町、季節バランスの良い安定した分布になっている厚沢部町などの例に注目できる。	**全町での滞在化促進**
7　外国人観光客入込	● 全道的にインバウンド「300万人」時代から、2020年には「500万人」（目標）が言われる中、管内のインバウンド誘客は弱く、毎年数百人の入込みに留まる。	**インバウンド受入体制の拡充**

１－４　調査結果からの課題抽出

■ 前項にある管内周遊、滞在化の課題は、本調査でも示された。「今回旅行の宿泊地」のデータでは、「全体としては宿泊型」来訪者の全宿泊地に占める管内宿泊割合は46%程度に留まる。

旅行行程としては宿泊型の来訪者が宿泊した町（N=835）



■ また、函館地区などからのレンタカー利用来訪者の行動範囲からは、周遊が管内南部に偏り、北海道新幹線開業効果の広域化が進んでいないことも明らかになっている。

■ 管内の周遊化や滞在化にとって重要な「管内観光資源の認知」についても未だ、充分な認知度は形成されていない。

■ 特に、各観光資源所在町に来訪した観光客においても「足元にある観光資源をよく知らない」という傾向も示されていることは、さらに“檜山の見どころ・魅力を発信”することの重要性を示している。

レンタカー利用者の周遊経路（N=835）

２　檜山管内の観光活性化に向けて

２－１　周遊化に向けた戦略的観光ゾーンづくり

- 檜山管内７町が、それぞれの取り組みによって「７町」をアピールしていることは、有益な取組みであるものの、その７町が相互に連携し合い、機能的なポテンシャル強化に結びついているとは言い難い。
- 「A町」を目指してきた来訪観光客にとっては、隣の「B町」や「C町」の良さを十分に理解していなければ、A～Cへの効果的な周遊、楽しさは作られない。また、長大な管内全域を一度の旅行・レジャーで周遊させることは難しいことも事実である。
- こうした観点から、管内をいくつかのゾーンに分けた“ゾーン戦略”の検討が有効と考えられる。このゾーンは、例えば次のような視点から形成できる。

  ゾーン１　北部エリア（せたな町・今金町）・・・・・・・・・・・・道央圏からの集客強化

  ゾーン２　南部エリア（乙部町・江差町・上ノ国町・厚沢部町）・・函館圏に連動する集客強化

  ゾーン３　島嶼エリア（奥尻町＋江差町）・・・・・・・・・・・・・奥尻町＋江差町連携
- こうしたゾーン内では「２町連泊商品」や「３町祭り連泊商品」など、複数町による連携施策の検討を行っていくことで、相互の観光入込拡充に結び付くものと考えられる。

２－２　通年化への取組み

- 檜山管内の観光は、“半年型”とも言われるように、夏季に集中する傾向がある。これは、管内に有力な冬季型のレジャー施設（スキー場な）を有しないこと、冬季型の大型イベントがないことなどに起因するが、一方では厚沢部町では「道の駅」の活性化によって、通年で「日帰り客」が来訪するようになっている。
- また、近年、バリアフリーという明確なコンセプトを持った宿泊施設が登場した乙部町も、このホテルを目的とする集客が成果を上げている。
- 通年化は、決して“冬季型の施設”を背景にするだけではなく、“通年で通用する観光資源”の有無によって決することを、この２町の例は示している。
- 従って、各町では既存の資源を『冬はダメだ』という既成概念を覆し、“通年で通用する形”に押し上げる取組みが重要になると考えられる。

２－３　滞在化促進の取組み

- 滞在化は「滞在を決断させる充分な観光資源の存在」と「滞在に耐えられる地域、宿泊施設のホスピタリティ」によって創られる。ニセコ地区が宿泊施設の拡充によって、“通年・滞在化”を強めているのはその証左である。
- 幸いなことに、来訪地満足度は良好な状態にあり、管内宿泊施設の満足度も、近年のホスピタリティ強化によって“人的サービス”分野の満足度は向上している。
- その一方で、“食”の分野での満足度は、未だ“事前の期待に十分に応えきれていない”ことも本調査で確認されている。

- こうしたことをふまえ、当面は宿泊施設や飲食店において、“檜山の食サービス力向上”への取組みが必要となる。（通年で魅力ある食サービス、海産物オンリーから脱する食サービスなど）
- また、滞在に値する観光資源に関しては、一朝一夕でつくられるものではないが、地域における“２日間”“３日間”のストーリーを描き出す取り組みが必要となる。
- 例えば、北極圏のオーロラ観光は「オーロラを見る」だけの観光資源の活用であるが、実は「３日居ても見られるか否か」、「４日間いれば見られる確率は〇％に高まる」など、ある種のストーリーによって滞在日数を拡大しているのである。

２－４　終わりに

- 本調査では檜山観光の経済波及効果について検討した。
- その結果、経済に伴う観光客の消費額は年間57億円であるが、その消費によって直接・一次・二次波及効果によって46億円もの生産が誘発されることが示された。
- この効果は、就業人員の分野では516人の新規就業を創り出すほどの効果であり、観光消費額、生産誘発額ともに、管内の漁業生産額が年間33億円であることを考えると、極めて大きな“産業インパクト”を有することが分かる。
- 管内の観光入込は低迷しているのが現状であるが、このインパクトある“産業”の活性化に向け、前記まで《周遊化》《通年化》《滞在化》の課題に取組み必要がある。
- 先述のように、奥尻町の大型ホテル閉鎖（予定）や奥尻航路フェリーのせたな航路休止案（事業者提案）、北海道新幹線開業効果の減衰など、厳しい環境が続く中で、さらなる関係者の挑戦が必要である。そのキーワードは『いま取組む』・『自ら取り組む』・『手を取り合って取り組む』の３つであることを提起したい。